Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

Kodak Gray Scale

C Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

義經記巻第七目録

しうくりん小国たちの事
大津沢所の事
わしうち山の事
三のくちの関とをる事
白いせん寺ほうくんの事
ふしのくちあくぎと弁慶のうちかちる事
かぜえのはまくまひさぶられしる事
かめやま山うそ殿の事
判官平のげんじへ出る事

義經記巻第七

判官北國落の事

文治二年正月のすゑより成あれば、たゞ判官は六条堀川よりあびくおくりくるゝ時をわびさびれくらしけるが、都よりいとのたびくおくりける時をわびくるゝ。都よりいとの友達のおもゆかしく人くおれば、義經少人民のわびらひとなるも、人わまくそんずるなれば、いつなりとも、ふりをわすとさくみやとおもはれくれば、ぞいと異別なるやらじやとくぞわれくれよかなるとくるゝ。

されくるゝ十六人、八人もかくのりなくてぞ帰りくるゝ。

刀へ下らんとおもふよりあびまこのたびよりあびまくらよりて

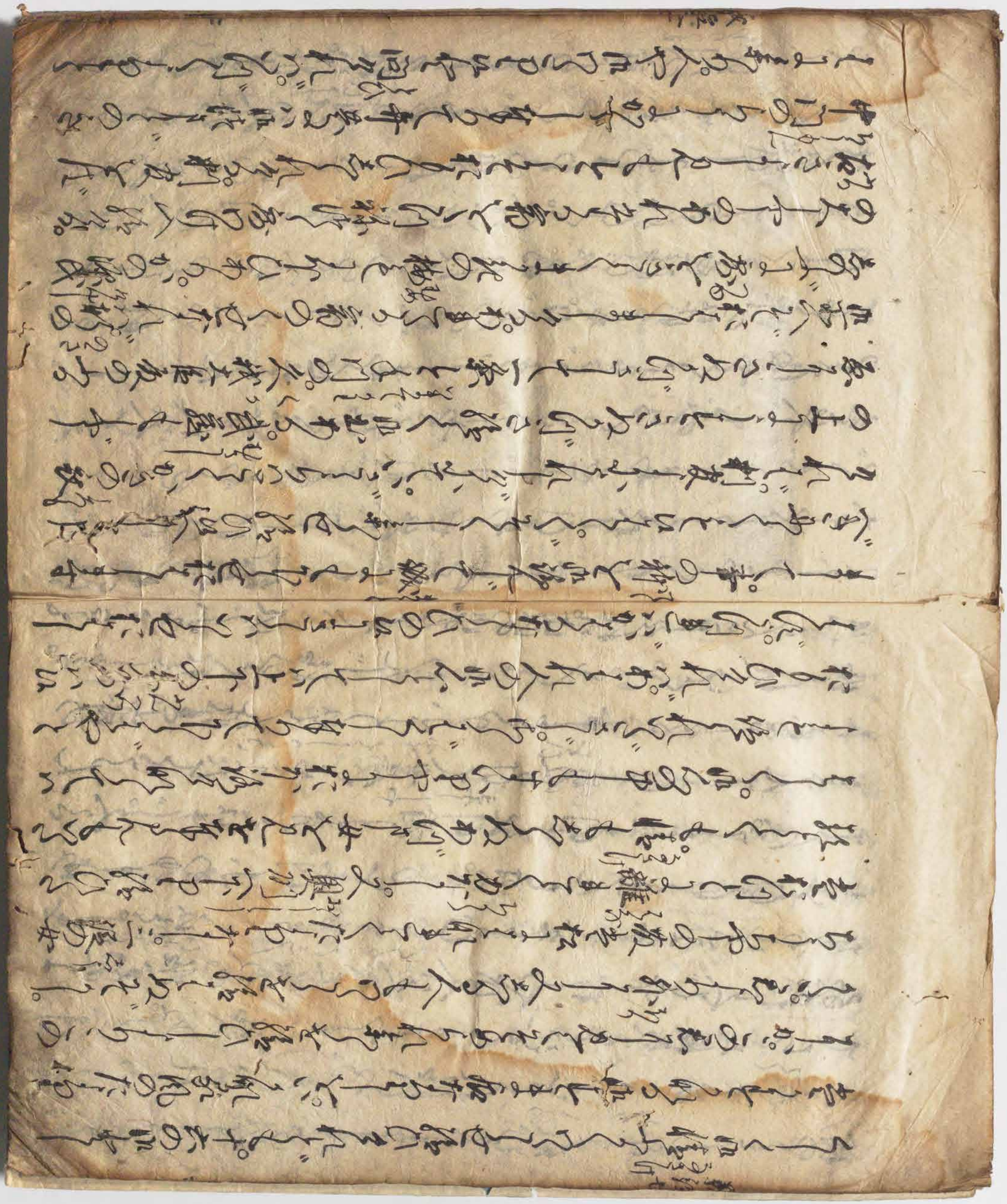
んずうでと作られたれば、どのくやくろい東海道
ことを知りて、いへ。あるいは乱世なれば、志ぜんの
のわんすう時は、けくれ明へさうぞもなし。小陸乃
越前国にてうがのはよりて出羽国のうへゆうんもろ
永よ使松してよう海べしとそみちいたこめ松とぞ
とばいやりめてうりて海べさしさ海くよりくる。中
よまま尾のセ法そうはんやもくれりてあるべさ
あくはいく。出家はくくれりてとりくれば法
よはさうわくむどくめしたくさ海とをうんどりく
の千度出家せてしく数化せてれーと肯さくくと
分のとさ知れまくよ出家くくるくやくんよ志
うくれば度はいるめてを海とをうんどりく
前国より乳法の面ろへいせんじが賀国志也白山
越中の国ようとさくくう出羽国よはくくろ山とくく山
社むかさ知れば山ぐのの明わひくく奈美滝茶
家松世のくけのわりさ海ぱ大金剛さじしのはちんき
ぐのこれ山ぐの礼義なりどとを海ぱ雅うくく
しく言へくくとをうべきしく絶くれば山さもぐうくく
しぞれぐの事こう安ばりぐ知へくまくれ

まゝこうばゝ山ぶしの事いわゝくはゝ春じゆうはひらら
房八園城寺ゝはゝしゝはゝ及ばぬ。弁慶八西塔よりは
ゝゝば一条黄瀧の事わゝゝゝ春ゝてはへどかどう
ちんぜゝはべき。山ぶしの法ゝめゝはせんがゝわゝぶ
經とゝよもはゝびゝふゝゝはめれぶんごろる
ゝゝをはまゝそゝぐはわゝめゝゝゝせ法へゝぞゝ
ゝゝ。どこ山伏ゝゝりんけうゝ時代どこ山ぶしゝゝゝん
ゝゝ。越後の国直江のはいは陸奥のゝとゝはへど。
ゝれゝゝゝこゝゝゝゝゝいゝゝゝ後山ぶしのゝ後ゝへ
ゝりゝゝゝゝゝ

あくわんぢ所はいちぬさてばこれ陽ろうとせよとて
たりひくくよ名とぞ付くる所長いさやうこの長いもの
三郎とびせんーのさんぐくま弁太郎い治祢の長く
ぞやまるぞて上野房ろ向さ房ちとつけ房みぐく
いの名とつけてぞとびくる利家後ハこに志る人れ
くくれば浦のはくる白さ小神二河ぞやくとび付くる
ぢ、浦のくびくよくとと大口ぢくと千くるとくるとと
ちされくれのくちくとと歌巾ぞ月のさいまで
ひのおくで。戒名とびやまやと房どぞやくるぞひ
くの面ととぞくくる。弁慶ハ大ち逢すてわや
くしばそぞみぢなる者ぞ名ぞ。ぞちんのくぐきま
ぢんはくいく。湾のくくやたくくにゆくぞ新文やく
の名ぐちんとぞくりくくる。名ととくくよたち力
わいちくよちくなくてはくぐいとぞぐびくりくぞ
くく房いさちんくいく下祢とびやくくよなくて。
くりくせくくとくのわくよぬのめりくくまさくりまぬ
ハすぐくりくくくとぞゆいくくくぞんーぞやハ空天
みすのたくくとまくくくくこぞくくくく

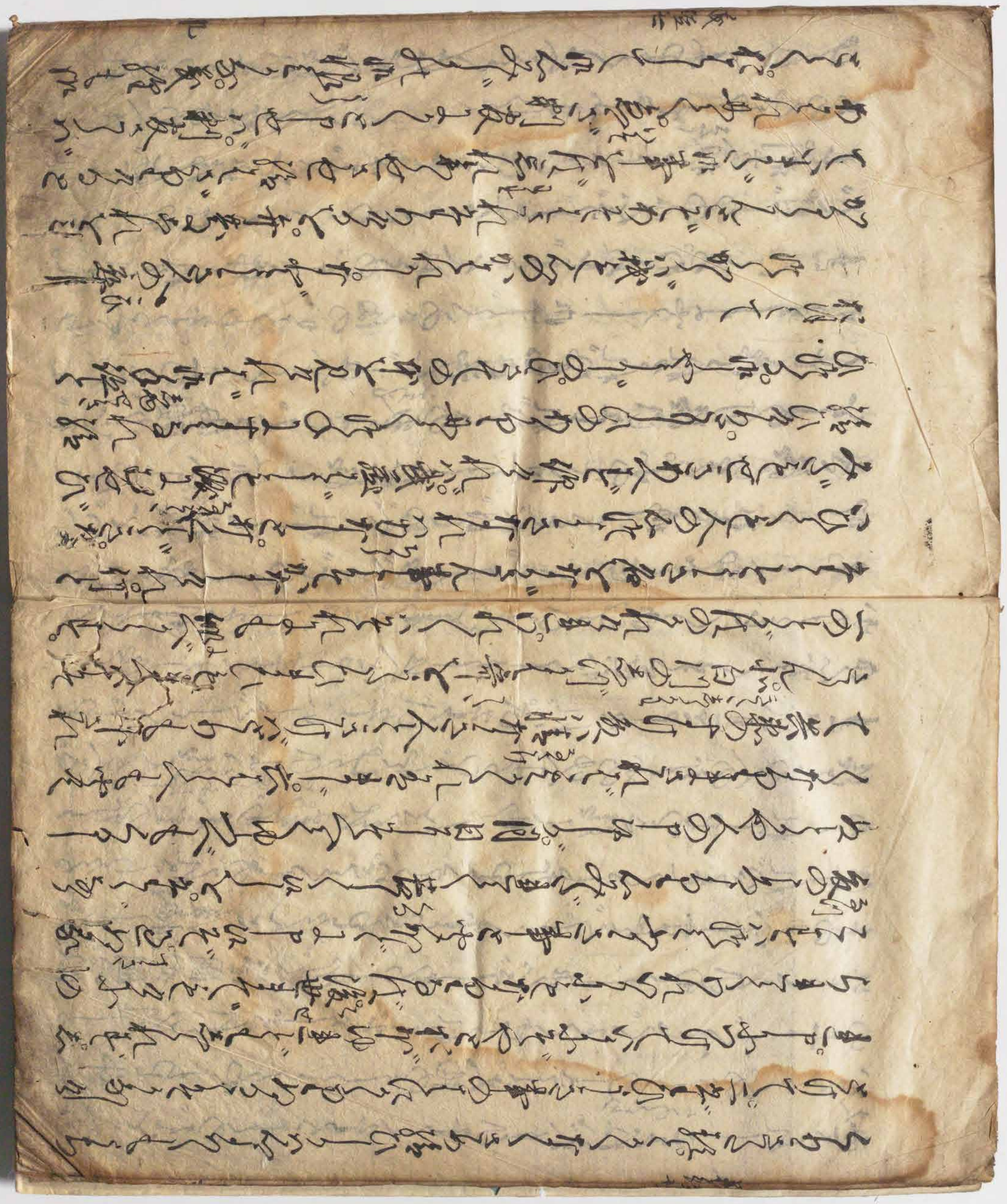
ちぢくてれたいかしくとへさそらくるぬ波戸八ちやの茂こ
きみの繼服書とそへそらくるぬかれまの出そらのや
事ハ四月のすゑ五日ハ二月二日なれぬ判友友の
奥刀ようちんとくいぐくもとりてあこ出そら
とこんくるぬ行も郭ようれりハひとく事のこれかぬ事
ゆを一除とよ門のてんよありこ人ハぬまぐりりゐ
すくむぐくたらんをこいひしおぬてせどてて下
ひるばさこう名波もふてくはもんすまぬくるゆ
まぐくはぐくたらぐやこの名ひくんぬぬくとと
ひこうぐくりくるハ波ひべさこのこれられへまり
ひぬまでけよハ郭ようれらいあこんふの門このす

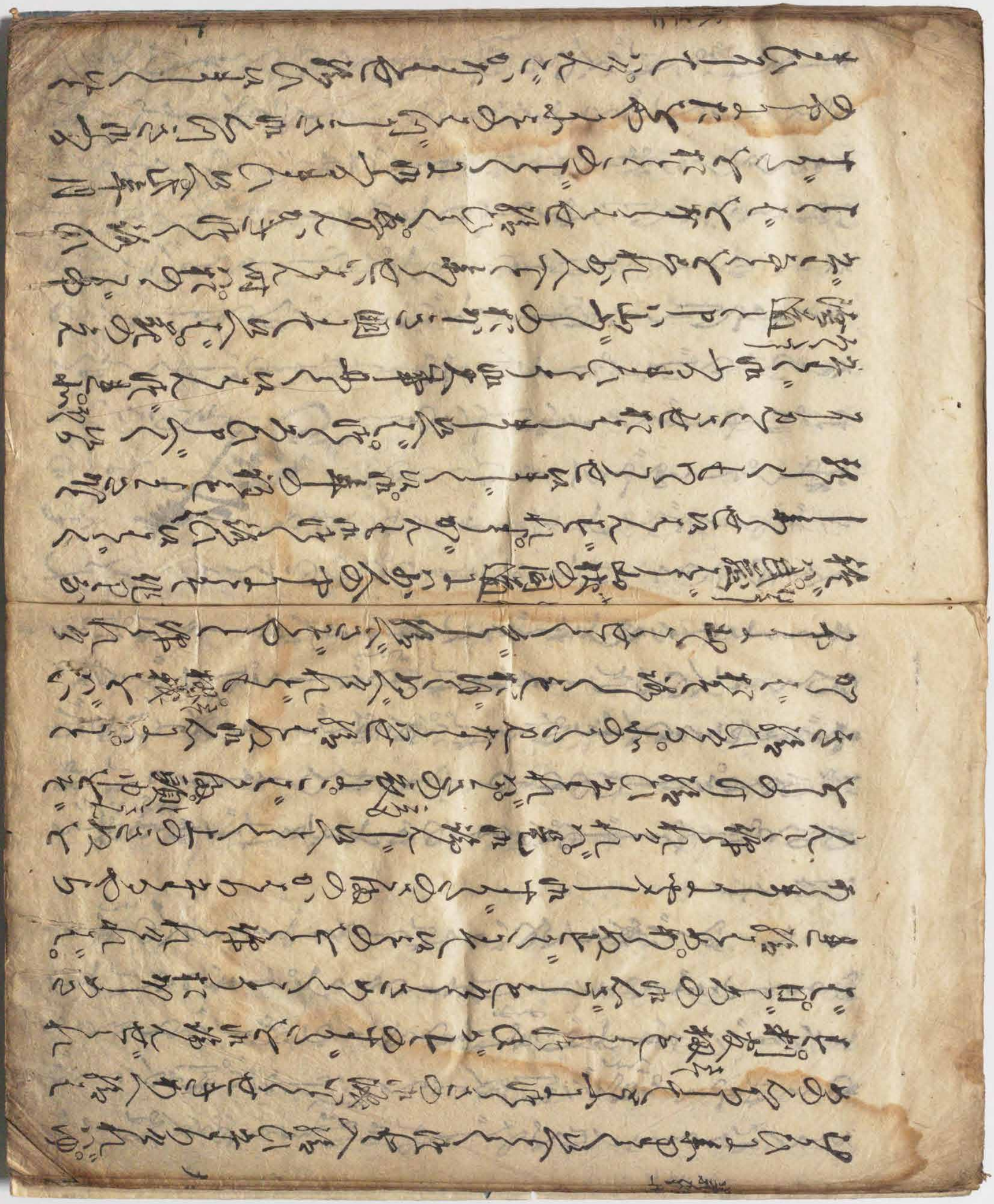
ゆやらんとりくれぬぬはの波刀ようふそこもも
波くはくぬくくとれわんど名ひくれけるる。
舟茂ゆくるハ事をこのふくすいくんぬ山武の
どこうんすこうけよ渡うけて女房とこんたてこうん
すくはぬこそ刀とれ刀者ゆもれくはまぬ人こ
きぬとひりくまんも所ハ女房とこぬくふわゆまゆ
まりぬはこよそそこくむいよりあまぐくはくりをを
ふぬぬたりへでくこ行ゆやひこの人ハ久波太長友の姫ふぬ
てこくた長友こハをくまこまくこ名ひくぬここ
くゆ女ここのくこよとくれ名ひくぬれこの十波
ハ者のくこくれ形よ郭むくこまくびぬくこんり



あくるゝ隅川の方ゝとゝとゝくんぱぱまゝとあるて
足ばへで弁慶る無くぞゝくる。日比い人ぶくくゝゝ
空ばひーーゝぶゝまゝとの西うれーさゝゝのくゝみゝその
ゝくゝゝゝゝとばひくぶ人ハぶくゝゝぞゝ間ばへばゝ
門ゝゝくゝゝゝばひひぶ的月月みちのくへ西下ゝとぶゝ
世ゝ作のばくゝゝ日ぶゝの西ゝくゝゝハいゝれゝ和
ゝゝ後ゝくゝゝくぶくゝゝゝばばんゝゝくゝ
ゝばへぶゝみちくくゝゝゝゝくばばれぶ人ゝゝ
ぐゝくくーゝゝばくぶゝゝ月ゝゝゝゝばばゝん
ゝゝくくくくばゝばばばばぶ西ゝ
ゝゝゝゝばくくばくくばゝ来年ゝの

かなしみどくるしびしょうとあるせいぞそれまたそれ
ぼんかすぐまさせたるまいりまいりへとりせてこうりゆうと
まいりまことりそれぱぱりそびそにしるぐるかるも
ゆるゆへのかなかのゆへよりつぎやひりよハるるべき。
あもれりりつさ弱もしちんされよ。あ不意のかう
ひかればさもくるもかなりもくるものれさりる
そのゆへりかやぐくりたりさんさ後悔し給
ゆもうひわりぐ。ぼんぐりわりかぐいは國西國の渡
の上まぐもくるくるせられぞうぐされいりりし
かるんのうめりさよ。大拙のうしりやるも郡へ
みされりしもぼかれりひそくそくこのくとうめ





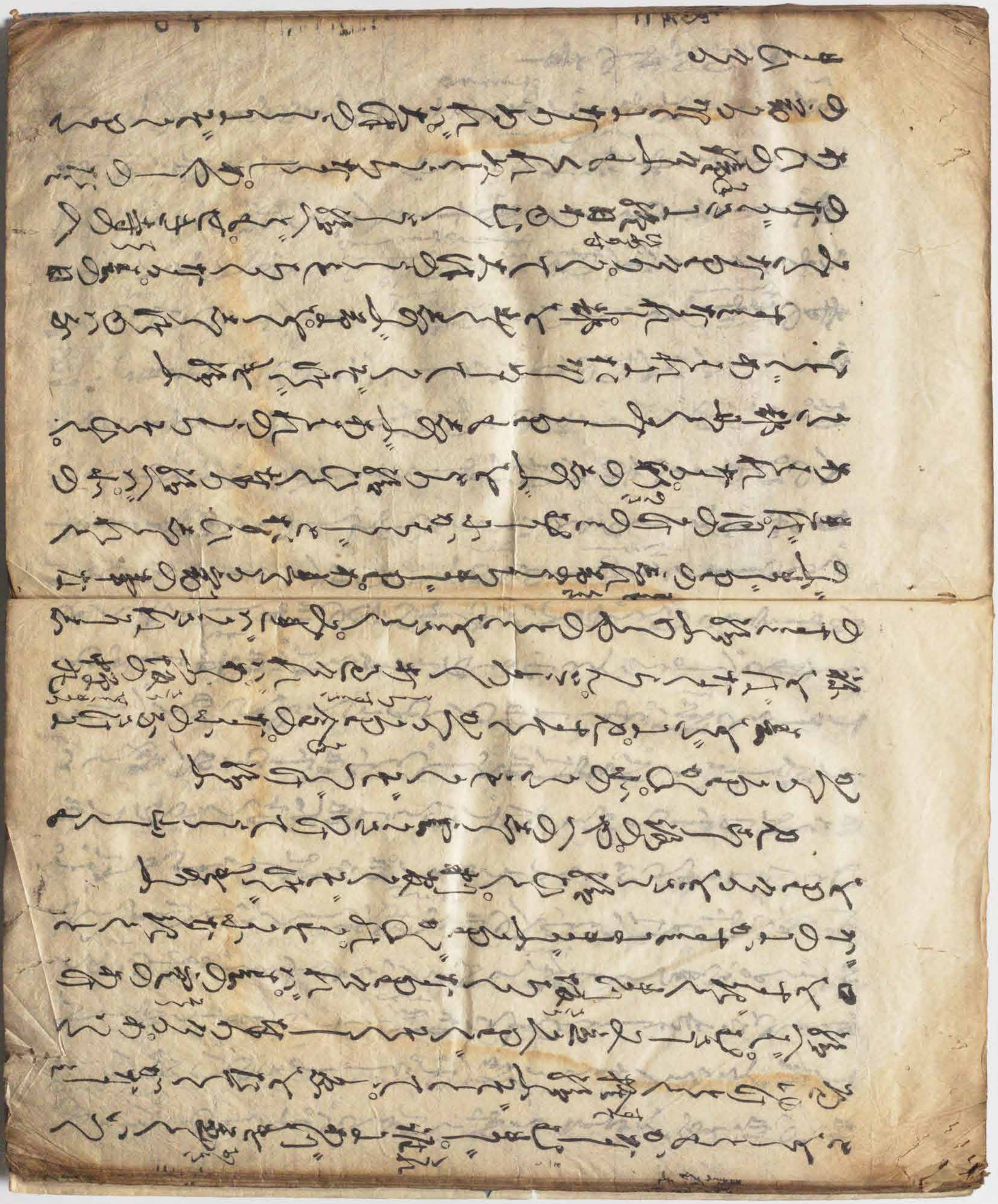
しそれぞれ八人の山法師よりあつまりひとさん
ちくてらんどるやうなりけりやがもうてゝ
よさくくこゝ洗れそれば弁慶の山くりやくふそば
いるところへいもりさてやいかりとわさくく清水とかけ
そるほどのこりあまりとほりつゝべて清か
くもりけりこさぶすまそとばかりそくかりなりてゝる
そゆいわげてぐうとげ寄りよほまものかそくく
やぷやそくしかりいろうもれやをひさかさ
ゝくぷうゝかぐさうされうわやのほゆぷうよわ
さぎのうさびゝと上りてこさせなるぷ白きん口うんも
んしやのひうれとうさせなるぷやのうくきよりん

はもうせなるぷ湾のくやたくゆいぷうちてのいこと
させなるぷ赤木の沢の日よりそこくろわりざうそ
るぷわそじこゝ林ともうんちくのやてゝとりちるぷ
ちんちのありさのぷやう歳よぷ法師のよのまれと
いまてくうけさせなるぷ我ほ第一けぐこにも若しる
べきよぷちゝのこのとゝ知つけなるそれば三ぐけあを
よそでたく洗ぷれやゝこのわりぜくんぐ朋國の泉
びとよぐせてれてゝやたくんぷんのかりさこそそ
ひゝれそれぷやうよ立法くくまのほてくようり
火わまうれそてゝぷまさゝぐゝとくくるようとさぷ
ふのうさとひきてくほのとくやくくわのうさこるうん

わゆませなりぬべしとなげくに、人々もとより物
どころおかせたる事なれば、和らぎぬるよりて
せをはひしぐべかりしもなれど、世をはひいれいかで
及ばじ、ひのくさはひなりたるもまさねども
もぐさとあしも喰うたるもおもしもど。
行事をこそとこさとりしかと、海のしこさも
はくりうちあをわもれとりしかと海のしこさも
よこがまこれどもさうわ祈てそわりるぶかりよ
二月二日まぐ祈ふりよしと門とおんしと海へよ。
みのの沢どよ人のとろぷりなるものあるんん
と出海んどれいかのうの四めれ十郎どんのうの竜

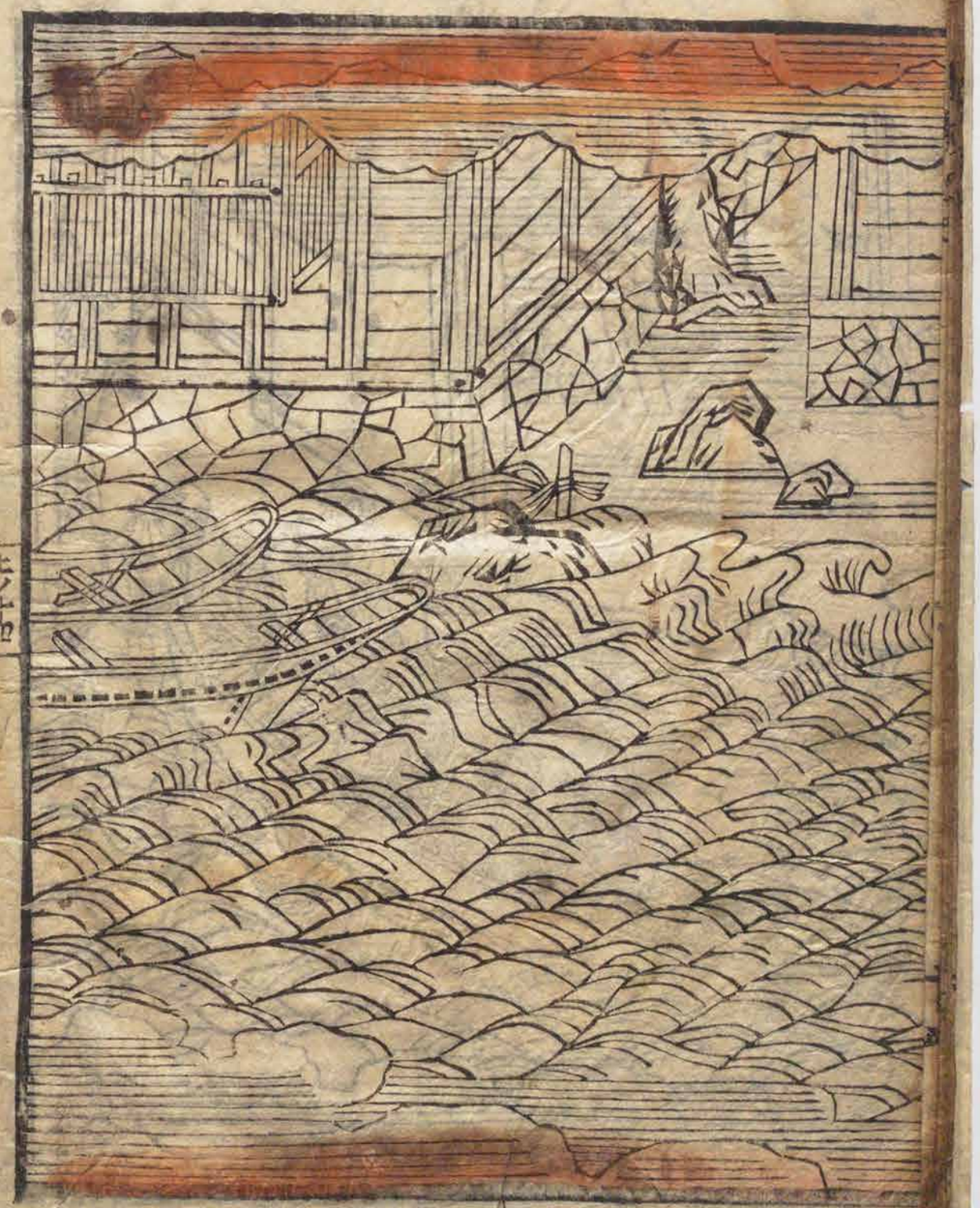
房ふ海さひくうれしかりんのうぬさくぶりくぶま
じりのりくぶとりみぐぶ。郎中うちさ年しりい
ちと見抱しも出仕ひいなんとくまりそるかのま
さりとバ祝よわが年とさくまりるべきこの海へど。
さうでんのぶまとさいかりひうへまりすべさく。
ひしもへどなくぶよもびるぶ六十三よ成るか
まりよよ紀うけなやまりぶくぶるるる竜房
嘆とおさくくひるハ君ハ清和天皇のぶすぶ。
のうさい久我家の姫君ぶ。そでわそあよ死紀家
力ぶわそびぶそのまうでなもしまうのぶ車か
どうめさうべきうぶくわみうしいち

もとの所へ帰ったが果報のがれがたくてめも
あてられとかなしくなったがれ給ふ
御ぞのもとへ帰りなんとて御ふとん神を拝まま
しまさんとて御ぞの神どもをかりる。
御ひとりとれらてわゆまもせなれども月なら
ともせ給ともばかりで一所よりでなくてかりの給さ
まどもとうち出て出んとなくさあなうく
まめ給ひてうつ。まもなくまで月とび出させ
給へれども御ふとの高しもとの給ふなく寄
の鐘のこゑもやうちなくすがくまわけ。まとも。
やうくわもこゑにまで出給ひてうさうさ
ふとの宮ふとんいさやかの方の出わりもやくる
しきるべしとうふとせと云れば出給ふ
てやうくる程ふ神ふとせと云れば出給ふ
を拝しいたびたれ出給ふとうみちゆくべしと
出給ふとひとつ出給ふ。でひとつ出給ふ
ひとつふとんいもんくまて出給ふ
利生の御ふとの御ぞ給ふ
いへどもちまてふ拝
ずしのさきうひとさ出給ふ
て拝とさくすこと給へ
出人の出給ふとそそ

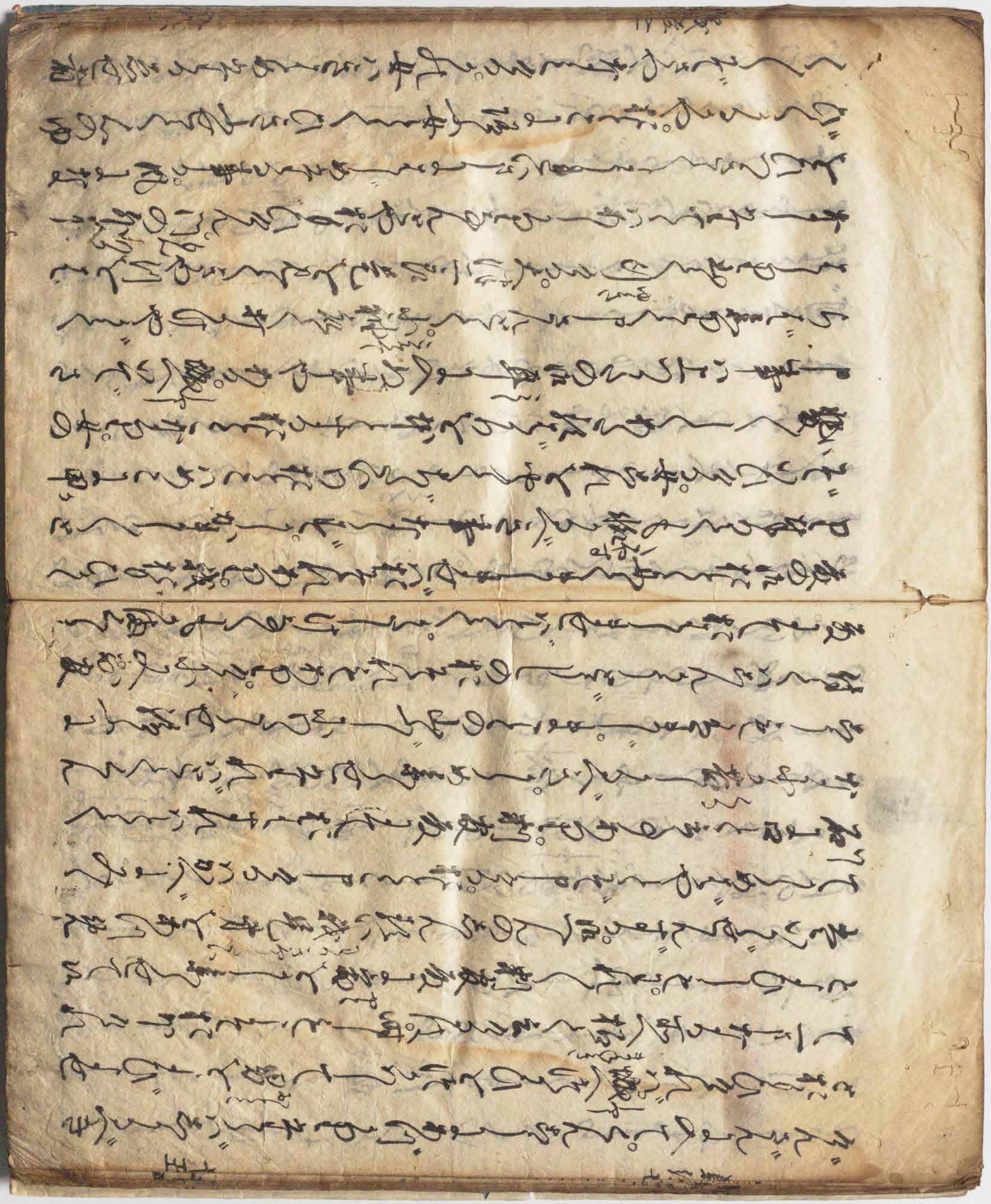


大はの事

家りうの紀事で出来そうな。天一口なる人とり
ていこせもや雑物家けうやうしもかたれた。利支
山ぶーよなるくくを勝十よ人あくく桃と出はい
とやくくしぶ大はの水を山科のさるんとんしぶり
寺の御師とうこうして。嫌撰とうまへてあひはされ
ぶこと利支い大はのかぶ紀さり大なるいへわるぶ。色い泥
はぶくぶ。山ぶぶやぶこせわくぶ。松りくくやくそるわさ
人のひひくの者大はは御師とー者の家なやぶへん
りいやぶとうこせるいぶ。ぶるいぶのくぶ貯ーー年
ぶりりーてーぶーーぶ。ぶとたびいへくくわくりれ



じぞうゆくさきなしひるまんがさいかく家とまつをさ
ゆるさ和らちうりてせんがつ沖波絵と同音よそ
ましを活ひろるぞ毛そぞたとめのそしめなるぞ大津沼辺い
さるりんのりあく嶽しあるぞ大津の沼辺う女拍子
よ見をりてわいりけくしの山ず嶽や壷国の道者
そ代の絵へども。衣裳のいけそしさよいうふもさぐ人
丸代わるどぞそそぐし判友友山ちよなるもくたと
絵ふたちそそ。山ず大せいとぐめくく嶽しやそくてい
方のためそ大事かちぞ沼辺ぞ山事と絵を
て判友友しそまちまさぐ嶽しまでりさずも。
つそうあもうちくしもうあちくもうあちくもの



かりもくれば大法師よりそれをうばはんとせめきたりぬ大法師
きをきうしなひてうちのひぐまのやうにあくにはそ刺皮のか
ゝりとすりてそこにゐたりぬ
しまうは大法師にうち女こそ
ぬとこまうらくしてはやくはゆくの法師のな
ぜさうるかしんや。そこにまりあをくうせ
よとくとわさのうちのるれだやとくうれてふ
しかるに大法師はいとうれどうてさくはしへり
まりて夫うちうくはぬ口ばうさ事
ましてはさいてもあめがこのり程いはもさりめされ
以ぬかふもしはいてうもはいられてわうを法
ひて明日のはなんをばかふくのがれを法はべき。
是より山伏さるりんとはりくうとかまつく刺
皮ともちりはぬ高さは出はべられよ小松と一波
ばかりはくはうりめされはく。宿僧さちのはやりよ
ゝえを法ひくはひて高さは出はべりぬ弁
をりはうは法より湯ばやうる事はいとはどもたれ
よあうりまはくひはくんげるよはとりとれはくは日
数このびはんをばさはいとはと。とりとくは法
ひるれがは母をばうはばのうちより捨くうわうちの
山とうるして越前国へへせ法へくりる。刺皮おもを
法へば大法師はとはは法はよまりはは井とりて

ぞ[illegible]せ々ら[illegible]て大はは浜良山神さ[illegible]りんのりて[illegible]
そ[illegible]と海ひとく中[illegible]きるはぐはは浦[illegible]
とのぢ[illegible]ひく流とう[illegible]
いわひぐ[illegible]海[illegible]おの事はいそびいやぐ[illegible]
はくんと中[illegible]ぐれぐそれぐの大事はとく[illegible]
きろぐ大はは浜良家[illegible]海中[illegible]大日[illegible]眼[illegible]
みく[illegible]矢[illegible]ひ号[illegible]中[illegible]
紙中はくんとく大はの浦とはと[illegible]
[illegible]れ[illegible]しくて毎[illegible]帆[illegible]
命中[illegible]いこなさはわ[illegible]大日[illegible]
なしくんぞ[illegible]辛浦の松ぐれはひ[illegible]

中山王のはかりてんとかの中見法へぐ[illegible]
まぬどりてなりませなるぐ風[illegible]
まぐるもう面迫はぐ[illegible]
どうぐ[illegible]
わ[illegible]の面[illegible]の浦と[illegible]
てくぐつり法ひ[illegible]

ちさうぐ[illegible]
[illegible]ぐやうぐ白蝶の[illegible]
[illegible]町の[illegible]
[illegible]なくまま[illegible]
秋の夕くれぐ云々[illegible]

くれぬ。ぜんはのうとこきさるとくうばの浦よりこぎよせる
さらの人とをめげなりうく大はは氏はいと海ぬ。
あくまうさかりの事わりの。者ども出へ山さ時の風のと
えかもを出へで吹々。刺友作れるいらや用はれ
氏さのそのあ〜こ情わるこのまぬ。こせやとれり
りむさ一房とりてしこせくてらばのはやてあれ
とこれりつべーこせでやと宣へで。弁ゑ大はは氏
と拾くりさなれば。こすすでぬ。右ましてこせ
なもみちそくもなくせ拾ぬ。こそんの母と
とこせくく夜の中ぬりぬ。りえこの服きよこく
りんうこ刀とれそくくでたびよる。大はは氏是と

拾くりまでも服代中くく出へ。中くく家のはこか
わくはこんぬまこぬ。こ海やてはぬくよもらこの
りこせぬこまさんおれりくれりてれ和せは
んとくく海ぬりぬ。下簡なまでも情わりてぬれり
えくぬ。大は二郎は家よ海ぬくれれば安はとくひ
の服とさんくくはくはまぬりくぬ。大はは氏
やこせくくこくれども。ぬはくれりの安はせんな
こさるとれりなぬ。山ぬりくめく刺友友と号し先
まぬりここ用とみんくせぬ。あ下のせくくは
の浦まぬくくぬ船らんくせめくれ浦ぬもなる
そのといひぬりわひぬめくさようあくくまれくら地とれる

ごとく。たりと腹巻(はらまき)をとれ出(いだ)してかたとときされば祐見
だきうこのひとりもとむてゆ(ゆ)げおちまをこちてこれ
さすがふいまはかちれなば紙一そうくさあくそしも
つうちうくあくこうわまこくくくあ大あこよあ見えうつ
ちとと見まこばかまとこうきくそわうくるかたここ云
こを女のかうそはうでなかかぎせいこすべきよおりひ三
ちうこうかたを流くくれ

わうち山の事

利夏(りか)ふこはのこうと三治ひくく道は國と越前のさ
ひなうわうちの山へぞうこうひ郡と出治
て大洪のこうよ義(ぎ)さのみい出毋うめされ毋んよそ
出治くわゆこ治ふへきやでなれかうちの山と戸
を人跡(ひとあと)をうこて古来三拾前石(ごせんせき)ぐらうてみちを
なとなうわ山なればいてをとそだてうさのれい
まうとなうへをもかうを出治ひかう
のれわうとなうくあ血かれ井とそくうくこ
くあくかうちの山のいうをそめ不ぞなうとを
ふわくの事こうをさのうちもあをれそれれた
なうふぐうわまの出こをうさふ時こう当を
くそれひをうくくかてふうくうけ入治ふかぐ
よ日三をすそこよれこうかぐみちのかうと二町(ちょう)
けへて大来のうくふかをうさがをうされひと

てごとてく。ふのうさと休めまつ。ふのうさにむそ行
の山や見とど何山と云あんこ向行へば剥皮見
きしーいわーいの山くーくろう。高時はわらの
山くーとれかせくれば。なりろやむーあるい
の山と云々ふと何ごくわ〜血の山とは名付くんと
言へば。この山いわーとうんせさうとしはいぐまはま
もも都よのがく。系もちわ何ばよかれるくわと
ちそそんじて血とかぐとわひぐわらの山とはかま
れかもとの行へむ。むさむ見とやてわこれ
見かくわくこなれ事とれかせはは事はいど。
人のわーもも血とうこせばくくわ〜血の山ばさ

ふ。さぐれ都めーてうあ
いせ行く。年月とうう行ひくれ
てよを月迫くなるひーえばれなぐくば

てゝ。ゆのうちと休めをつゝ。ゆのうちにたゝ
の山や見とゞ何山と云ゝ。ゆんご問ふべ
きゆゝ。ゆわゝゝいの山

ゆゝは人世界。日本国のがんせきゆゝん山のわゝ血の
山なゝゝの事ハはるゝゝ。ゆゝ山のゆゝ細ハ弁ゆゝ
しもてはゝゝゝゝ。ゆゝ山のゆゝ細ハ弁ゆゝ
じゝゝゝ義ゆゝゝハゝゝゝゝ

我國へ入給ふ。誠生わりべーとくかの國へ下り給ひ
ろかぐ〜ぐ〜ぐ山のぜんちやうにみくみとうれば股の。
けつさ給ひひろかとぬ祈は義ちづさそろこそと
てぬ腰とぐきまわせ給ひそろかればれくち
山義なりくがりぬその時さんのりちとこかそ給
ひろかよりくわ血の山ぐ〜山ぬてこそわも
いの山わ血の山のいたれこれ山へくアかれば刑部
よ〜給ひもくこそ山りそろくうひ給ふ事
この口の関とそう給ふ事
和もまてよわけかれば〜血の山を越前の
國へ入給ふ。ちの山のかのもよ若狭へ越道
わりのこと山より明みちとわりぬそこと三の口とそ中ろ
越前國の住人はるかぐの國の住人井上さ
ありん衆人形くぬ。ちの山の関屋とちらへてよ
於三百人ある三百人の関りとすくぬ宮屋の前
ろらんぐ井とうしちそのろそ給ひもぐのそ
中なぐそる者とばみちとまぐ武部りぬ。
刑部殿くくくめとくく紀問てそひうさ
ろぬ。みちり人の刑部殿と見なりてぬ山ぬた
ちとぐちんをいくそのれ給ちぐとそ中ろぬく
よ付くもいぐ明さ紀もそのうれかりめりけう
ぬ。越前のろさ中もわそさひそれさろ男の。

をそ文りらく、そうりじをよてぞめひろぬ
袋見と見給ひくぬふとやけハみ細ちく
と紙給ハ月ましてわるぞこの給ひろかさのもに
てかかりしてことさんとしたよ正よ人の
中と多へくれ利夜の中へよひさ風ぶきくぬ
事こりいもひこさ月ひげくへくれ下ひいぞき
ひくれじぬこをひひ弟こ月たそ中よ
なんぢよ者こうづ給べきこそれはし祝
云くれぬむこしぬあれをやてさやこのさこの
こぬんこの君の事うく云くれぬのかくこ給
しおくハ作ひぞ君とハみまあせくい用

かくハやいで見ハ越後國の住人ゆうさきりんとや
人の用ひしぬ平家此の
しるみつきりひだ
給見が三ヶ國の人投
ぞこと見ちハひう事
給弁ちるもかなくて
なこれ事うかみの
せひこのとぞこれ
たくびるひへむて
ひちぬ中へむく。越前國ちこの
ぞんじと給ひく。ぬ投へ出くすこの

ゑとしそよんくゝれはのうち暗へ出くゝ
ゝあるゝれりとせき板ひく森あり
松とかゝるゝ白山の権現とゝまくらの
板ひかゝの風交のあるゝ出くゝ大のゝるゝ板
ひくゝあるゝ西さのゝとまくゝてゝけのゝるゝ
山とゝくゝくゝろさゝぐゝちのゝとこいしゝゝ
て六ゝゝじのゝるゝゝゝとかゝるゝ。
いゝゝせのゝるゝ四十八瀬とゝくゝ。交海の郷といら
ゝるゝゝかゝるゝくゝんむゝゝるゝかゝゝゝんゝ
ゝくゝのゝの山とゝゝゝとゝゝゝ
風ゝゝゝゝくゝ直江のはゝゝゝゝ

とゝたゝゝけゝゝ三十三里のゝゝゝゝ面ゝけゝゝゝ
ゝゝゝゝけゝゝ寺ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝて九十九里の濱よりゝくゝゝゝゝ
八十里のゝまゝゝれゝくゝゝゝゝゝ
ゝゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝくゝかゝゝまゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
やゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

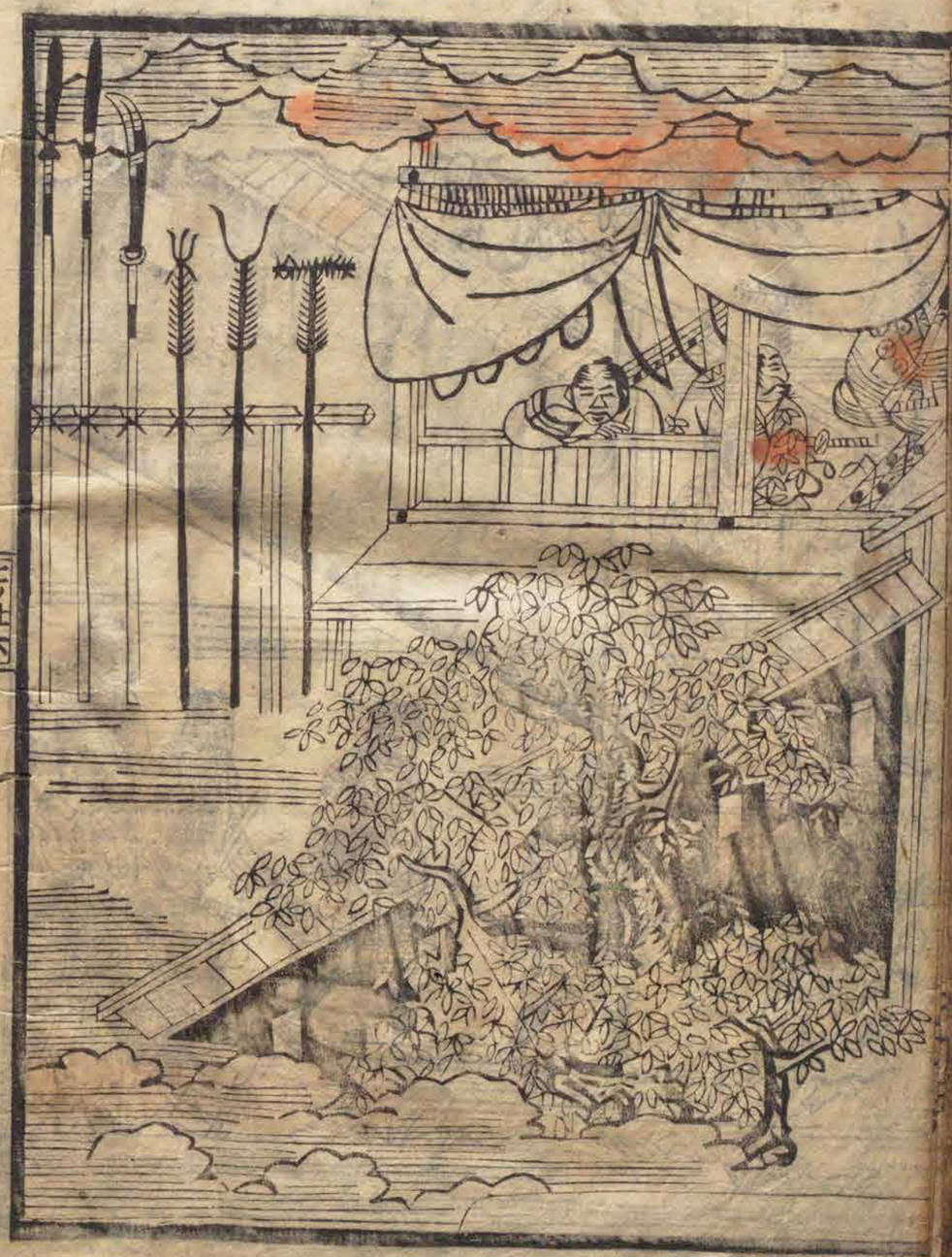
みやこの東はじの長ぢうに猛竜松浦とて
名ばかりはあれども三日ぢうみちうしていぶかしのの
地蔵堂あり山とあつてしぶしてしのぐんしう
はとのこの小町とぞいひし前のすまいはくるぶしかむ
ろのさうしやまこまちが同寺よりひろ所蔵平
の中将わかまへ下りとなりひろこのはなづは
さへ山ちうたくさうしなりてしおやねとなりひろわれい
と為なへいぶるなりとくなりとくなりとくなりとく
せばかりひとつぶちうしいたりさうなりれぶる人と
ふうんへうるはとこうわひとこの松はやはいてとやを
まこたへやはわれはちぶ暮ゝ日ゝとれの下ゝ文と堀

やくとも見なひろ寄
くり寄やわひとこの松の人ゝへ郡の法ゝよいさやい
もまりこのとやくこうなりひろ名来と法法んじてい
月山一月ぶにも賊法ぶまやひぶくうちへ道くい。
やとまげてびみちよりを法ゝへゝさやくれど。
判表是とやメ法ゝく是いたゝこのりてゝ林ゝ八情
のれちくひとたがゆるぞいざやびみちよりゝとくゆ
んと法ゝれくれい弁ゝ芸るやくうら法ゝべき。
ゝざやうこさめと法法んぜんゝくれりゝめされいうら
せまゝんゝやはりもゝ是とみゝのこまゝせはふとに
ていやゝぶひとなりれ法ゝくゝ事とくゝ是と

たゞしかるべきせんさくをすべしと仰せられけるに、
てしかるべきかの事いかゝまゐらせんと申されけ
れば、さやうのもの〳〵とぞ仰られけるぞ、ひさしくたち
そひくるどの山とどのこさ海ようにてゆんだれば
ぜんに同やうにてだうよのくるとうのべて
たてくびとをひくこさうさ海うしとのくわぜこむ
絲とふまへてこたとりさうくんりとうわて。
とのれうのまくようせて責られぬるひくや
かるいまこしよハ上面うりんが用よりぬ恨むる
事ひくかぐの国井上左馬ぬ用よひしとぬみしも
あるせくひくやてひへぬ仰られけるひあるせく

とうあるせひへく仰られけるぞ、ぬくら嘉といとろ
ふかぬ〳〵あるせべさしとぬくれぬぞそれくうとのれぬ
ぬ事ひくこくくまん中二ぬくうひくわさぬくびうれて
かゆさの中ようあうてぬくてぞとうり
井上ぬ下人平三郎とぞ申ぬぞ
ぬとうり下鶴の品夢たるいうのくぬ方とぬひと氏
見かぬぬ極十よ人のくてくくくくてもとうち
ふてぬせうやとうてぞだもくぬ十町ぬうち
ぬさてせのと二よりけそうくぬくりんぬの
仰よい武義房うとういをのこ氏ひうちぬそ
とくやとくくせ人ぬと一よよい小のくのぬ仰して

十郎権のうこ。弥の尾くまの井亀井すうぐきうんだ。ぬと
ともあくぐ。ぞわひえ町ぐ。ぞやてくろぐさきのせいい木
かぐ口ぐりのひとひそうくれば。関寺先とんくとやや
ぞりのこう久ーうれば。百人ぐらと七人とやーうれこうく。
ふれこう刺皮ぐよーこうれば。ぞざとれこうこのぞ
ぞゆくぐぞきこわれこうこうきめとんを行ぐあれも
刺皮の正ちんこうとたやさうれば。弥の毛ーもぐ月ぐ
うもなるぐ。刺皮すくこ山ぐ作ぐれくうぐそぞくこ
ぐ行ぐ山ぐのなかぐ事をーくーいへぐぐあれ月ぐーうさ
ぞこーせーれいやらんこの行へぐぐなんぐーこぐろ山伏
九郎ぞくこうん行ぐこーうぞーうれば。



ぶ関ぶの天狗軍ハ雅為と向ふへ参国の住人
ひつぐれ岩来くの国の井上左馬之ノ丞ハ人ハ
きけりさてはいつ井上ハ金沢よりたすけるとの
をたとせざるんぶ来くぐ海ぶうよりひうけて
手つぎこのくかこと義光ハ後のかーこぐろの
ぶんぶの西ぶ神観音のおたすけ関やとおひ
ぶ殿ときくく八幡のおとひきくぶさと宿
さぐ海ぶれ名ぶ関寺どくとぶ名ぶ実も判友こく
おたもまさすぶやとそ海べくはよこ
つぎこのとくぐんやいぶ来ぐこぶ名ぶ。弁慶
もとやてこのどく先達ぶ上ハぶ法師原

ゆゝしき事とおもひ給ひ、ゆるしたまはせてよやわたり給へとて、
のきばへとびのぼりぬ。されど関屋のうへに立給へり。是も
こゝに利友ありて、はるかにまもりゐたれば、弁慶のぼりくらんは是
もくろ山のさゝ房とやらんにぞ、ひとしかりける。こゝに法眼
ひとく年こゝろざしくだりぬ。此利友、とうやと
くらの間とやらん。尾法眼とやらんとをば捕て
郷へ上るとやらん。扨はしぶ。とくろ山づゝが利友といひ
ぶべきやうにおもはれと云ども、かゝるとらんで
給へども、弓矢とこゝろざし、刀もち刀のさやとをばして
ぞ居給へる。わとの人くらを七人ばかりてくるぞ。
いとく関屋にとまれとぞ。こゝろ天せいの中にとも

こゝろくぞ。村こゝろせとぞ。されめこゝろえ
給へ。ゆゝしき事とおもひ給へ。
ちん関ひなりとこゝにはかれぞ。利友かしこ細とこゝろ
して関屋とかしてとこゝろ
らべしも関屋とびのさゝ
てこゝろくしぞなる男すくこゝ
かゝるこゝろも天人三人こゝろ
でう関屋とこゝでいはるべこゝ
まこゝろ天のゆ教書しも。かゝ

関よりのく関寺の芭蕉来て
と語りけるとぞ。弁慶はいとうるはしき事
ことにかはりやわる。河のなかにひとあまの山郭のせき
関寺どもとやうてはもとやうてはいにしへも。
わろひの利友なれども世にまれなる人なれば
せどもむさうでなくいとのこうやはいたんずる
めるやどりの人のあるこの山ぶくやまぶしにて関東へ人をま
つせてたいとこれのとひたんがでもしよどめなりけん
どのやうれど。弁慶はこれいたんうどうのれたるひ
あくこうの関東のひつるひ上下のかどせきやの芭蕉来
あくのうせんくうでは山うこうてはやとくたびくや
すくてもうべくてのうのいとしもさしがれ十ちやのとひとば
関寺の用うさうへて。すくよ人のくてひくくと用よへくはく
どくくそ居うの程を関寺るわくとひくう。弁慶は関寺
まむうのてとれどくうやとそ居うの。ばお人い出羽国の
さうくこの次郎友とう人の長ぐうのうの山はてあんもうあく
ーか人るうのの。ば時にくくの年ぬうして秋うして日数と
てく小陸道の雪消くくの年ぬうして秋うして日数と
かくの弱くくこのくくさうくくなくもうくくく

かりさいはるよ。是ゝ〳〵ぜんぜんの出家とへいたうんまこ
そうまでゝくいへとこのうちとそうくぞ。四ぢんぜとゆさて
せんそくゝ。ぢりひくゝよ祈りかまひ振舞それば。関ちるとも是ハ判官ハ
たゝくとせやゝく関の戸ひらさそれども。そうそう
祈りて一度よい出ゝゝく。一人ぢゝ二人つゝ寄ふ迄
やとひくゝそそ法ぞ常陸房ハ人ちゝ出さゝ出ちり
ろうがやとへやゝくれば判官ともうゝ房といまゞ関の
うんまそ法へや。弁慶ハ関ひ出めんい上判
官ゝ法へ。弁慶ハ関ひ出めんい上判
官ゝ法へ。弁慶ハ関ひ出めんい上判
官ゝ法へ

いの初ひとくろ。日本第一大ひとぶんぐん。大菩薩八大ちんぐんぐ。海雲い三ぶんぐん。

りちぐん。なかくいは七堂の大伽藍。初瀬は十一面くりんとん。稲荷祇園。すみよし賀茂日大明神。比叡山王七社の

文。神ぐくい剥皮ひみちよりまいせく。あ〳〵血の関。

寺のひようけてとくめさせなり。名とはいよあげく。

くんこくくくくくいなくいくくろ山の潰波房がぐん

くくの社とはせ法へくぐ。神ぐくる。関寺ともまと神ぐん

しさとたのりぶよぐたりひくる。ん中よい八幡文

殊菩薩。神ぐくはくくくくくくくくくくくくくく。

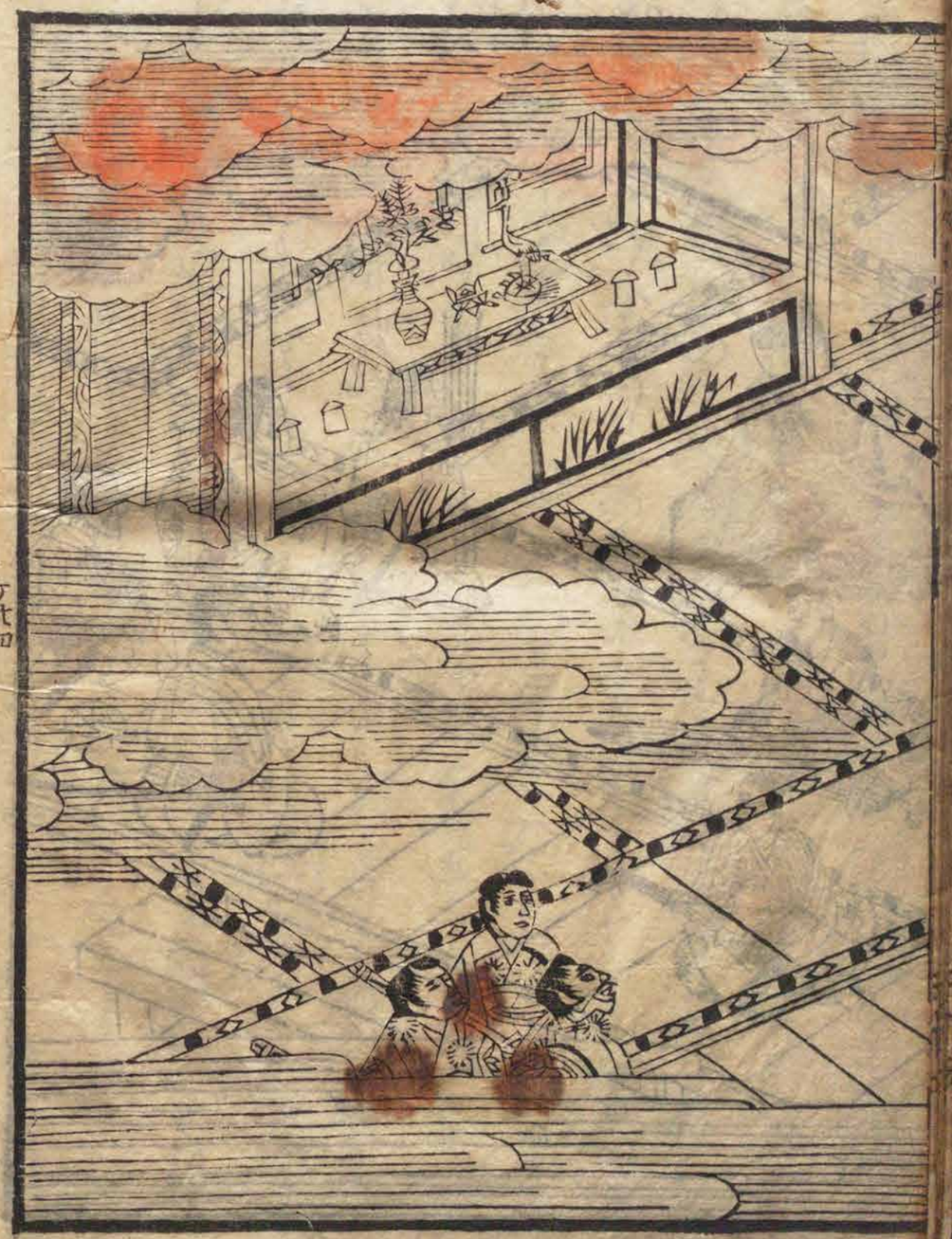
奥州までくくくくくくくくくくくくく

うつくしくへいせん寺へぞかくられぬる。その日の西より風
吹くゝ世間もいとぐるしのうく。夢よりそらんちらーてへい
せんじの観音堂にぞ来る。大原ぐも見とゞめて長
吏のりくよそつりそらる。設所のせいとりよりかりて寺
ゆゝ二院よりなりてせんぐーるいぞ西国東国山伏
禁制ゆくいすーぞ山ぐーいそぐ人もなくぐ。剃髪
と大原坂おりもちの山ともとゝれてくんかりぞせて
見ぐやいう坂よりも見いの剃髪とてれもするしおぐくは
とせんさとぞ。ゆくゝ大原出ぐりの平泉寺とゞ氏
山門のお寺なりぞうれいぐ。大原法の机則も山上よりとゞぐ。
大原二百人設所のせいとゆゝ申りて秋ぐりよ。観
音堂にぞとゝ魚ぐる。十よ人い来の廊案よぞ居さ
ぞくる。剃髪と小のくさいの西の廊案よれたくゝくる。弁当
ありてとゝくくれはくは。見いよの所よい仏ぐよ
いもぐいぐぞいもくくひは。ぐるとるぐ叶いぐ所までは弁
当ちんじて見はもんゆひぐ。なよまぐげおはい
本力と坂くいゆりぐ。なもゝてゝぐんぐ。
はくぐこくくはぐはいはぐ。ぐくくはぐはいはくぐ。
ぐくのゆひぐくいやぐくいやけくくさいよくぐ。
たくくぐゝやゝ坂ゆゝくくぐくる。大原法ゝを
坂はくをくくは見はぐくはぐ山ぐくくはぐ。
ていぐくくゆ所ゝくくれは弁当ゆゝけ

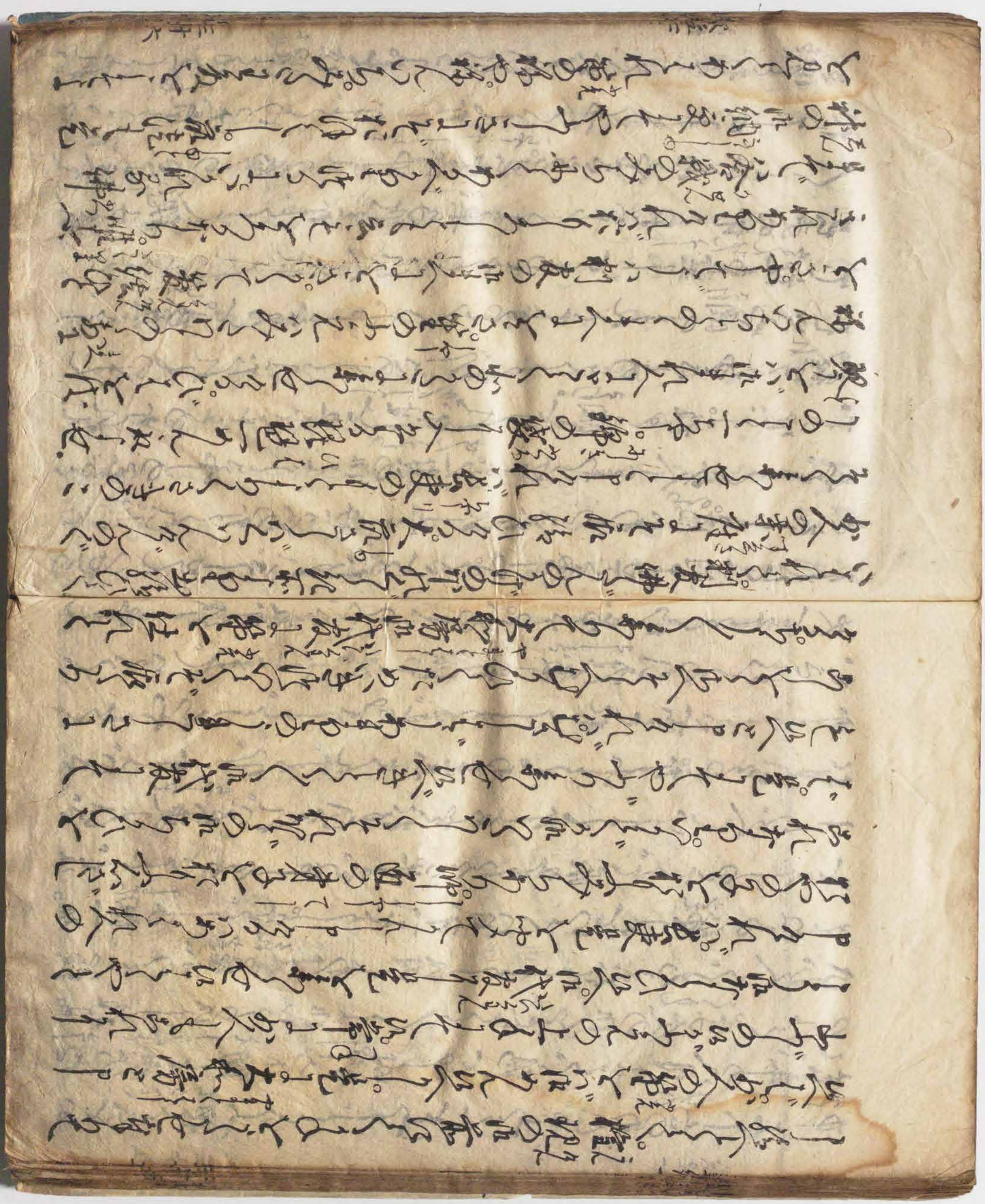
此の出羽国にくろ山のこぶしとて人をそこなふ事ありしに
ついてそこの郡司なるよさふさの河内守と云ふ者
ありていとゝ云へるかの人とかたらひて
あるとき人のおこしたる子息ぞうんわりあるくろ山よりいく
まなくさかの人あくひをそこなふれば家流もとゆえて山
をのがれもいまだ利益なしていかゝせんものぞとなげくうちにそれ
をまさんよりぞくらに見せてくるくろの家内とばし
とりつべき金王といふものくろよりの名誉の呪をしてゆるす
そ兵吏事とやめてさるよ所をとりてぞくら房
とまひくゝ兵吏の房よりべきをいへば弁当をとり
兵吏よひざとくとりてぞ所をとりくろ兵吏とされ
ぞくらはかの人の事承はりもとゝ法師も及ばもとゝ
くるまはいなれくりんのせいはやはれりまう
はぞくゝ云へれば学るよくとくいもくろ山よりかく
びとれくるまはいもくびぞくよりてゆるゝ云へてい
はべどもくるんよとくいはゝ山三井寺よりそれりまし
はべさくかめそりくりくりんのくよもはもくびやく
てくるよとくくはゝ日本一くるもくべくゝ云へれば兵吏の
の弟子よりべくゝ義絶くくるゝ法師はさくるく業
くくさ寺中一の長老そのかりゝ兵吏よりくるはゝ女
なくはくうびくくひくゝ事はゝ者のくくくはゝれはゝ女
ぞくくくさくはゝ弟のくくくくくはゝくくくくはゝ

いへども小児が業と申すべくはべれども、官吏実を
とるべきにあらざるとやうに、世の中の物語りとつくりいはんやうにやうにて、
業の見とやうにて、安き事やうにも、事やうにも、まことにお服
申しけるにはかりにはべりけるぞ。されば、
事なき孫ぞ、とやうにあんにこそ、
廊御所にまゐりてぐ、
ら、事とて、
家の業にはべりぬ。業あるべきにあらず。
てはべりけるとぞ。
とくさにひさうげさうにて、
おん人の出とて、
つくばうにまゐりぬ。
朝よりいとまなくはべりけるぞ。
よさうのくにの業の児と、
ん、くにの略略、
乗りはべりけるぞ。おん人と、
その、いづくにまゐりけるぞ。
ぞ。光とうべ、
とくにひとの児はべりけれ、
とくにひとのくそ、
ひづくに、おん山づ、

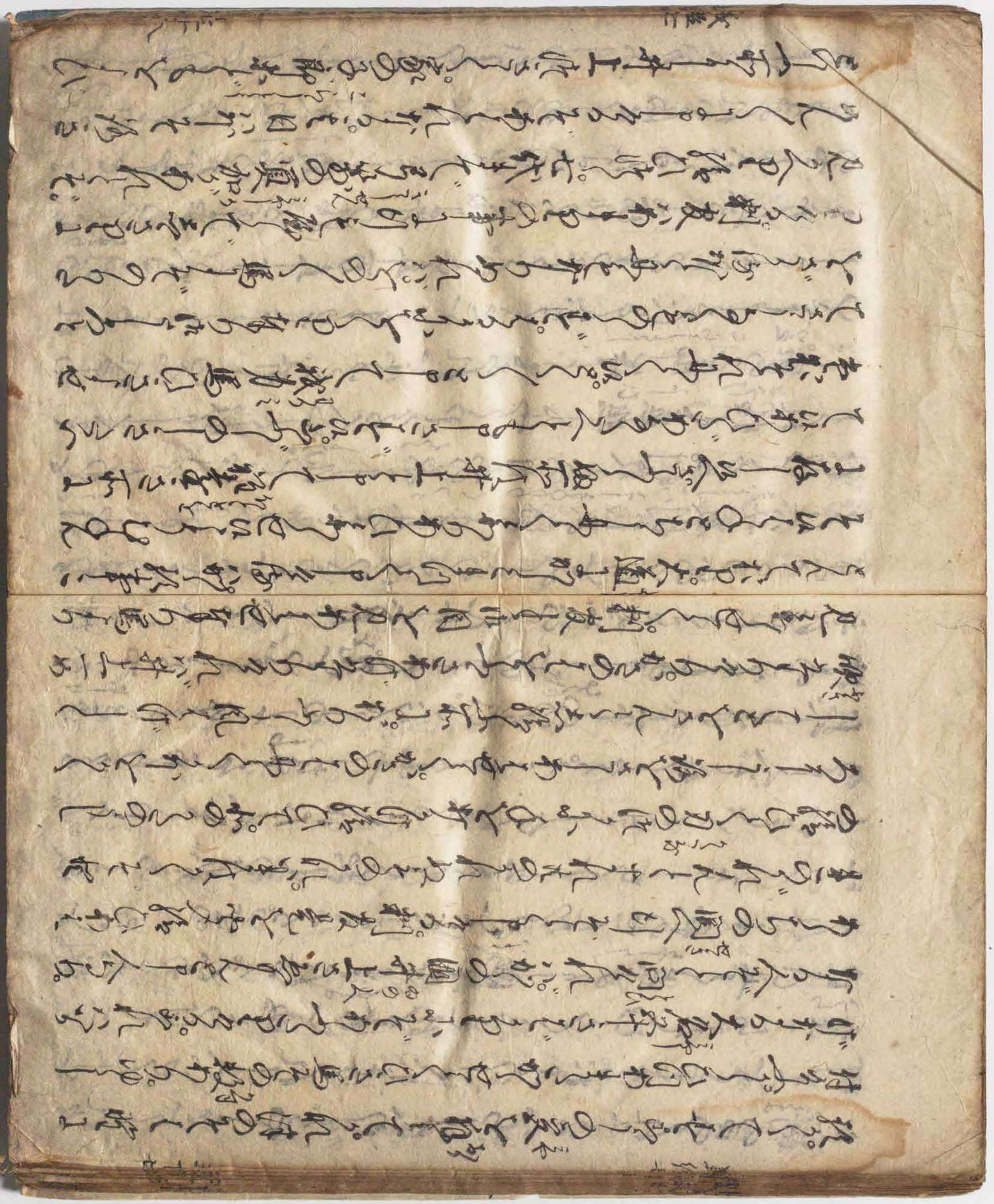
六人佛壇のさしもよりあへひろくかの人のぎれとぞ
れ二人の兒ぎ　さまたけりたんぱ弁ぎるまりて
ひへ　ひれぶのうち　やこ　ひさるんぢ
て　そちぎ　ぎのうんりまかりまりんりん
のひれぶ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ
ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ
ゆ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ
て　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ
の　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ
し　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ
ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ



火とそうくかぶるつぼのうちにさいてがさねたり紙一ぱい
おさめくろひ産毛よりなほ紙ほそうまでいくく
かなもつさ所をたてもつまさどぼそうもんやうく
ねりひろひなかおもあまきたそんずるかくなりばさ
しちぐべていつもなりめやなりひろれば出更よひざ
どこうのとてそ所ろ〻ろ弁慶ろいてこでは
もねるの筆よとつくい日かは一でうつぼでうは細一は。
ひか人ちぐろよれもちまりは所しあけ言葉ふのこん紙
いれくぼ学文のはんをそくくはひろひ根よ。
去年の八月よちぐ源と新所の所はしと変のの石
中上下白のあひぐぼ上えんとちぐ拵こ云とか



さ児とわらべくるしひけるこゝとゝ児しとんらべば
たらべ口もつゝべくしなゝなどゝつゝ大原ども口
くまぞゆゝやさゝゝ。長吏寺中ようゝ角りさよりて
長吏のかゝもゝやゝくゝよ菓子ゝなどゝて親子そへ
て親者堂ゝとゝゝもゝゝ人ゝけゝゝれのそゝれ
じゝさゝや酒のまんとゝぐゝやゝくゝふゝゝまゝと。武蔵ゝゝ
ゝれゝゝんゝさゝのゝゝくゝゝかゝゝさのまゝゝたれものまん
かゝゝゝよゝ花ゝくゝ酒をゝゝけゝとゝゝとゝのかれで
ゝゝくゝゝ人ゝよゝまゝくゝせゝよゝゝんゝのゝゝゝゝゝゝゝゝ
と云ゝゝゝゝゝゝゝゝ



てゝ、をるハ、ゝよりもわひしきまづしさ也とハ雖
なるゝあれいろ〳〵あの山おとし刺麦あるよりもれ日ぬ
のやしきよりハいろんなハ國のさゝ〳〵さし通ぬの大事とこ
そかりべさよ。ひとりさ所よりなれ山事のてくお
しさよ。ゝちなるそ〳〵ばかる年万年すぐべきゝ様の
くさ〳〵さたちんなくことゝをりてゝとゝ云られ
ど。家の子郎等どもあれとやゝ。井上のんれ中わ
ゝれ指も無也も山ゝ〳〵ゝ人やゝ〳〵新りくそ
たゝ〳〵ゝ。刺麦その日ゝの京ゝ〳〵ゝ指ひゝ〳〵ゝを
くれハ秋麦刺麦長盛ゝ〳〵ゝ木の太郎みりゝ〳〵ゝ
まゝゝるあいのいりとみゝ〳〵ゝさのゝゝとゝて深わ

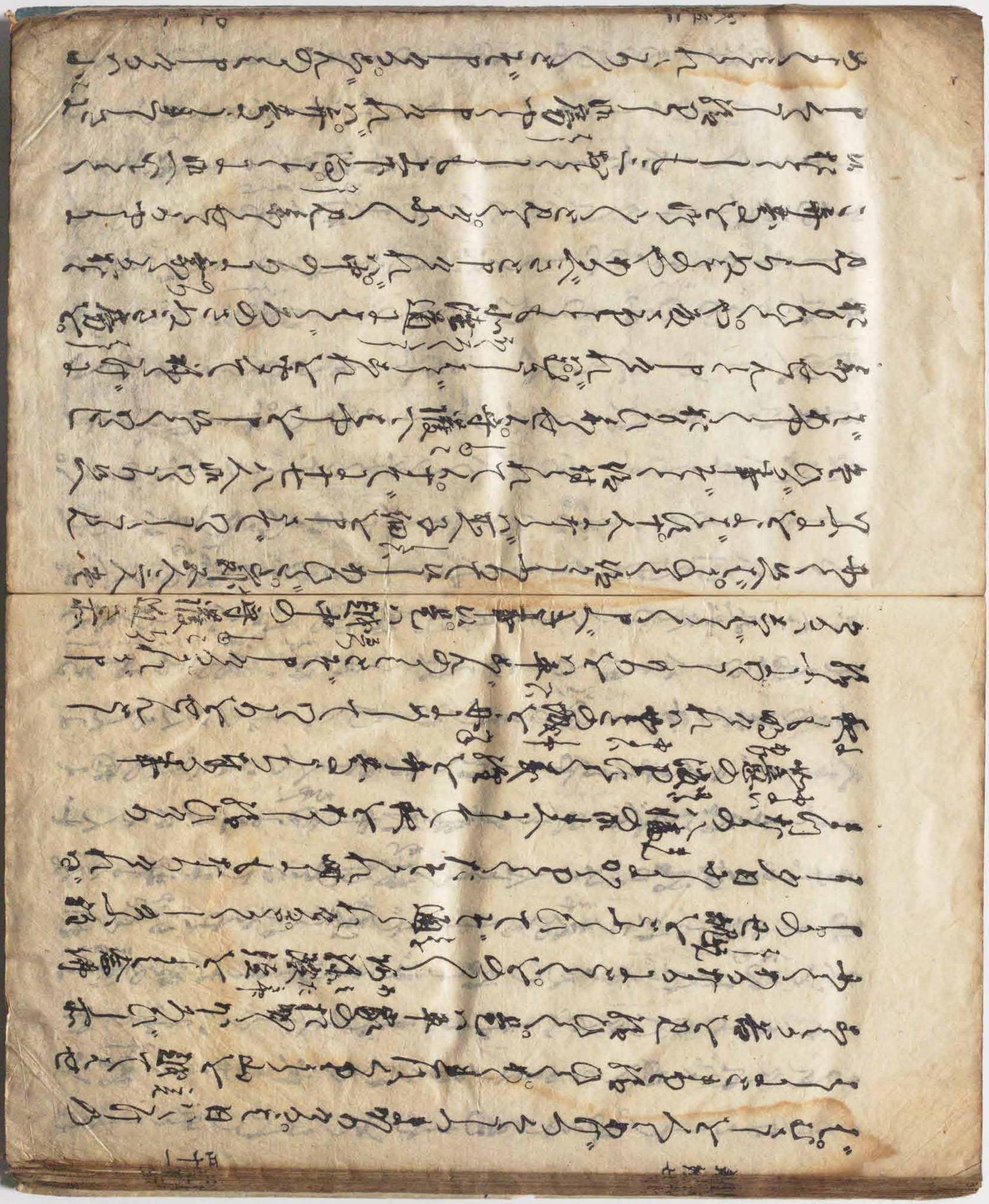
ゝの和ゝ〳〵ゝ麦ハ白山の権現ゝ〳〵ゝ白せとたむゝ〳〵
ゝ白山ゝ〳〵ゝ白山とゝ〳〵ゝ白んゝ〳〵ゝ〳〵ゝの十一面観
音ゝ〳〵ゝ和ゝ〳〵ゝ通和わりゝ〳〵ゝまゝ白山ゝ〳〵ゝ麦ゝ〳〵ゝ
うの麦とゝ〳〵ゝなゝ〳〵ゝ也てゝ。ゝも日ハ作ゝさの権現ゝ〳〵ゝ麦
ゝ〳〵ゝ通和わりゝ〳〵ゝ。和をすゝ〳〵ゝ神楽麦ゝ〳〵ゝ也。
わゝ〳〵ゝまゝ〳〵ゝこゝやゝ〳〵ゝの六良ゝ〳〵ゝ麦わゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ紙とゝ〳〵ゝ指ハ
てゝ。ゝかゝ〳〵ゝの通ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ和ゝ〳〵ゝも通ゝ〳〵ゝりゝ〳〵ゝのゝ〳〵ゝ〳〵ゝ
ゝ〳〵ゝ麦ゝ〳〵ゝ通の大名なゝ〳〵ゝ。ゝ麦ゝ〳〵ゝ麦ゝ〳〵ゝ麦ゝ〳〵ゝ指ハかゝ〳〵ゝ〳〵ゝ。
ゝ〳〵ゝ用ゝ〳〵ゝ〳〵ゝして刺麦とゝ〳〵ゝ指ゝ〳〵ゝ〳〵ゝとゝ〳〵ゝ〳〵ゝ。
うゝ〳〵ゝゝハ麦ハ色ゝ〳〵ゝ麦ゝ〳〵ゝ麦ゝ〳〵ゝ麦ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ。
新ゝ〳〵ゝハ苗機ゝ〳〵ゝゝのゝ〳〵ゝとゝ〳〵ゝ麦ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ

むつのさんくわれとも通るみちのわるよりて
ゆかのせんぞとぞ作られたれば弁慶ろ〻ハ中く
めいくとそとぞ通へぶつ大勝ようて通るやうに大勝
あくとしりてまくいかりいそんすれば弁慶ろ〻
加藤まろ次郎とくひけてそくひ
とりとりろ笛櫓の腰とられば三月三日の事なれば
しく無代まろ小ろのわろそびろくてはるわろと
みこりんぐんさろりりとおりろてて酒よろひろ所
わりひろしぐしろいなく鼓の間よへくろうひの
えんのさもと通ろくに内とうのぞさ見られば義経
ろいしろうろかひむしぐ大のこ忘とわがい、

俄の者のはとひろ〻義経の酒ろそれとろひろ
ろぐとと横笛わくはひろ〻れひろくそはく
そはろうろんのはうさはそれひてたはいへやろくろ
て通くぞしろそろ〻ひろ〻ぐんさしき二人おく
まろろおそれはへくそれば弁慶もれを横笛なろ
うろ代はうんで出ろくはろ岩のくるはみはくとせ
ぐもへせぐもおもろうどうはろかとさそ
ろくの内よわろくろ出ろ大勝通付ろれひこぐ
とおぐろくうんくはろ出ろくはろいはが所
行ろれもぐひかくうんぐよへもわるひくろる
はゆのらくせろするぞそろくとろも笛櫓のすを

をえくらしよとしいまをかりさくらの梓と越つさ
てさうてひよそ出すりろ。弁慶の墨をうて見る山ゆんせ
られいへ。山内のものどもも張籠ーいくやかてえんり
そのかわりろ。富樫ちれとりくいれる山ゆそそえ
じ。見ハ東大寺くうんちんの山ゆていろふ山ゆ方へ入
しれたまりで。同月の山ゆ松くいへとしさきさ山
京のちへとそしいは見ハ山内くうんちんのたりかまり
ていれちゆくいは義経の門前梨とりい。赤山ろとつく
ちれの国へトりいは傷いさろさのわゆやりしいふ
清ろうかりり。弁慶後よりトりいは内の動をハいりやよ
ゆくそうれハ。富樫ちれいへとくりの上

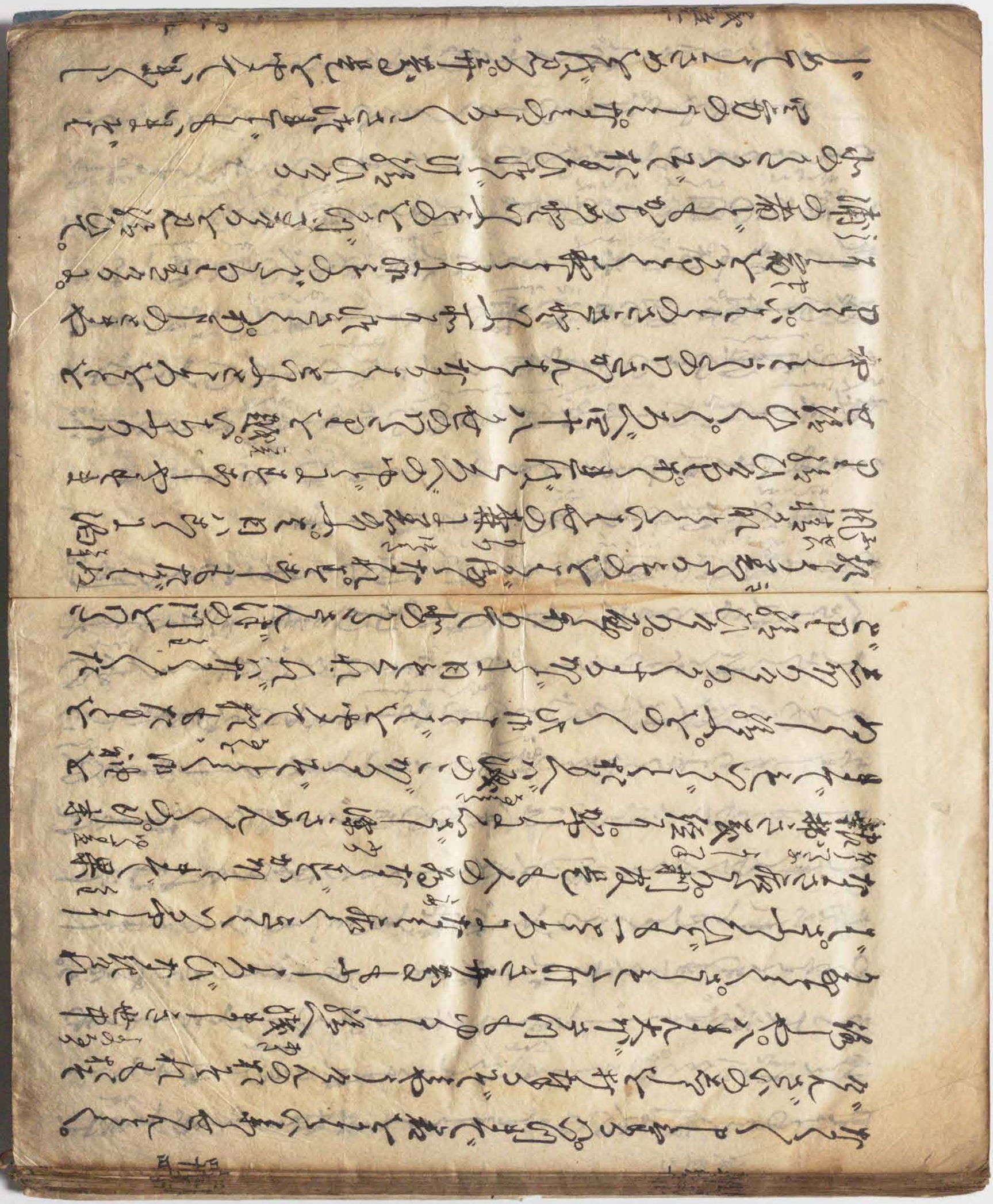
ゆ入平地安房のうくしりゆ尼海ゆのたりふとくちろ
も西一ちハ人もれゆさよりうれゆ見樹い家のよ所ち
安房を上下安りりりりまでゆりりくふくうんちんよ
入りりて。ちりちりりり

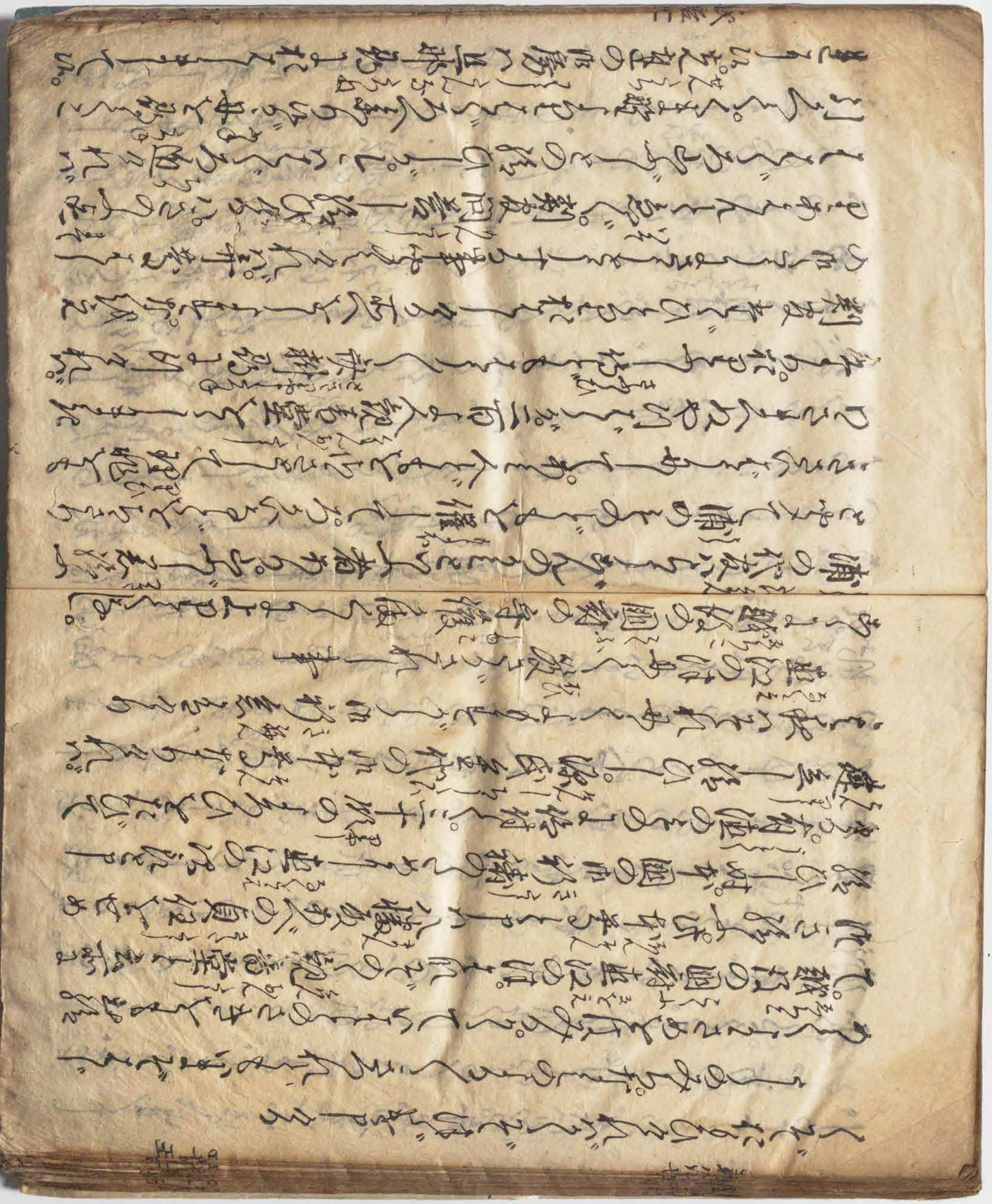


ざうしさたとこのいとやうなおみとなりそうばうなとこ
ばかりとりつけうてなれど。弁当をよられとさて
てそとくびかたよりて九良刺殺よりて名とさて
ての法へとりそれがあのへさきよ村ふるのすりの衣
りそろこそあやしくなれとりそれば弁当
われからの白みとりとはきてらしは魔ならわれは
防ゆへうて取みくんてよわやしめらてこそ。せん
かそれと云それとも必書もせぐ。ぢうけうさて
原法ひそうり。弁当服へらうそうすぐこよかりとく。
とりとりとくみでことふまへてはるとそんで
そよひうりてぢまかもりあのうへよ。

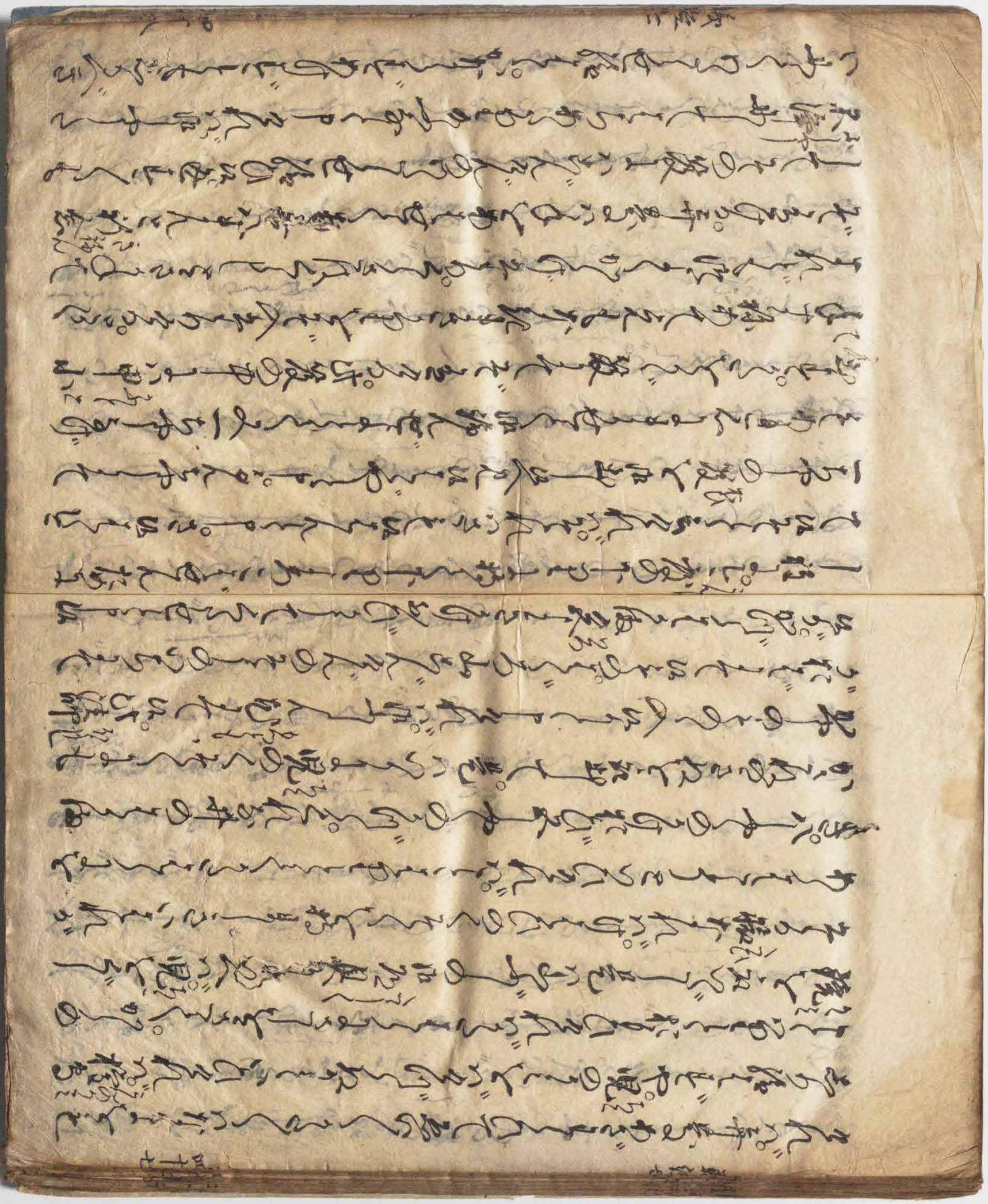
かゝるあつさ極なるあつさ極なるあつさ極な

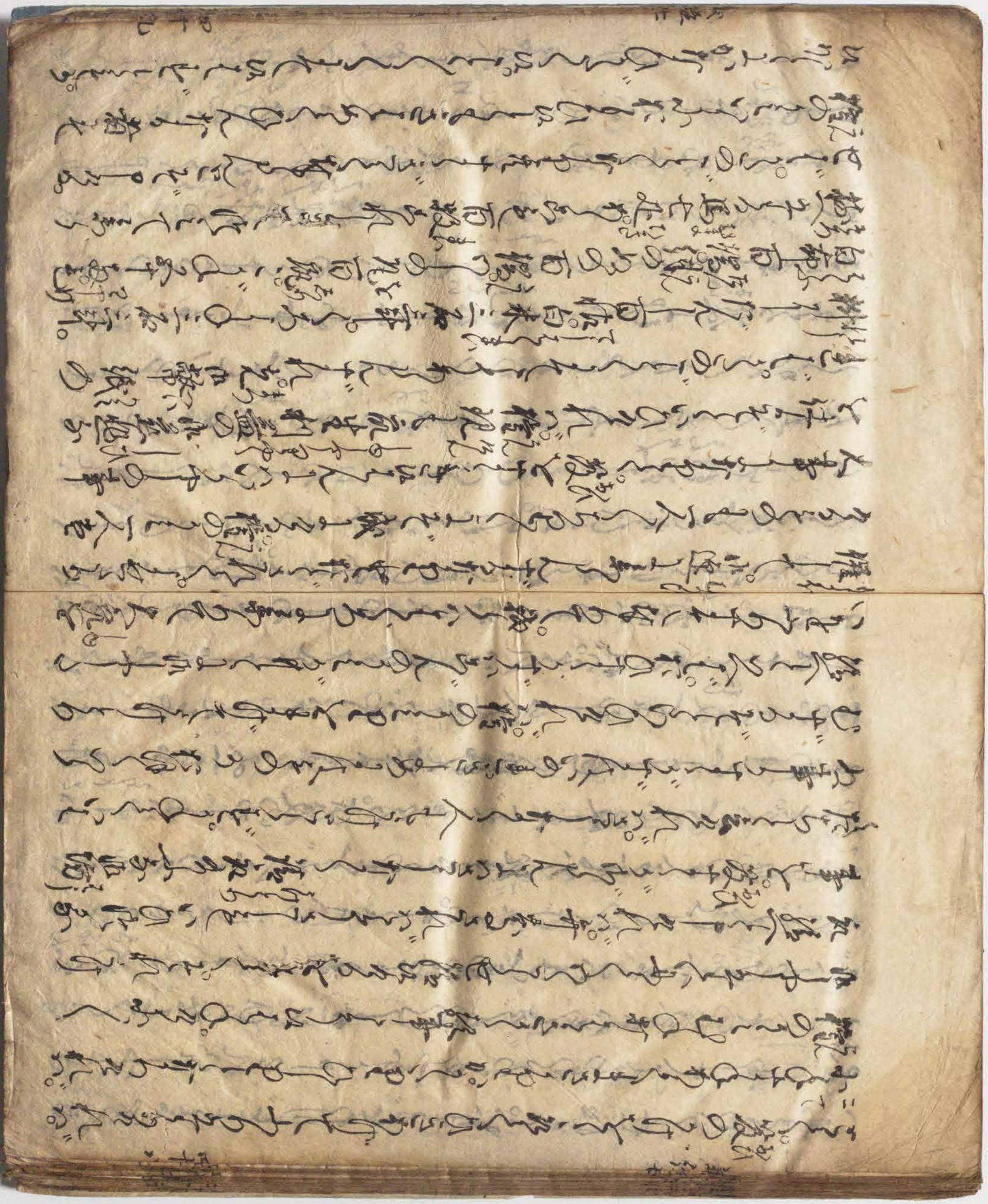
さいしょうの桃丸のせなりくらべやあちこちんがてあ[illegible]へば。いのかしひよりくらべ石山
郷の赤ちんなりくらべ。ひとれば。日ぢれ丸をうつ
ちなくれども。ぴ坊のわまりてうりいよたしまれ
きとうとくこうりつさんじ。それ。赤ちんかしえ
とくこ丹とりつさび。弁当のりとのがやしよ物うりあさ
らば。出羽の国へ一年二年の内よ。ねまいまも
あじざうのみ。おいしいお人のちぶる沼郡反の
煩なりと。そうしとわうとやへさんすうのとそたとし
くれどもぶんのうちなふしものの為へ母ちんうでい
えうそりうさとまづくれうくりうさず。弁当のあ
へとうれうまいいたくれたぴひう事ちうりうた
てうう形なりとうく。さうがそれたびひへうくれの
うこのさ為へ形ぶびうの為常なりをねがせうりて
ちりうりうぶせうり橋のうこ色とれくりうう為
りまもてあくいひへ丸ぶの西ぶこのりくれ
ぶ赤せんどうく刺友反うこうそれとそれひうう
房ちれとりくうこうがい神とひうくぶどうがまし
やうくわまこそれもれなり事ぶくうやうる。
うて六ぶうぶとうてなこのうやしとうてわ
ゆう為ひうぶむうう為れんとうれたこうれぶう
ひうくう刺友のれうそりうよ丸付くぶ志と志て





是ハ仏法盛なるよしなれば、まことに同言一法なり。
武義記ぞ、そのうちのもとよりてぞ出来り。
そもそもの後の中世、三十三番の生親者と家ち
中世まゐせひが。其月月の法毋蔵岐家殿よりれ
まゐせひとんするぞ。そのく分不浄なる神うそさ
うなく迷分てぶんぞんのはかん地ぞ。法よる。作
法べき事わるぞよそふく作れひへ。精現と機
まゐせもふるぶ。ぶくのふかぶなしば後とすくがんん
ちとかいたまじと。れぶくれどもしもちら
いずして四くうのしやくるの。精のくにやくるはおな
後みちくもちんぶそ通ひとふ事こと隠れる。
是世代と祇寺濃こうの高とそたへたそのごとくを
こひせこうぶてはわひぶぶこうくまでやそるはこんする
事ふくはるかやしよりはさはもくはんやとめよれ
の一ちやはくは後まはせひとんとやれば是いれかを
のひくせれもまはの後と。不浄なるものしまこと
くさぶうせん事れそれはまたのくのぶぶ
そぶはいとかこのひはひなればとやはんへ
とのまくはかよれはくはんはよはるは後一ちや
ふくふのぶはくはくはく





たのごとくゆわひて結ひくゝ米二石白布三千人。
四の羽七ーゆぶ〻十あまもそろへくゝり結ひ三ゆぶ〻ゆ
よりをかいおきそる物もひとつ〻ひとつ〻ひとつ〻ひとつ〻
て結ひへとゝのそれぞれにてさいこうとゝのそれぞれにて
さめ長ゝせんとゝ。中小ひとすゝあくまさりそ
へそる笑ひひて礼れ。かゝむ事とゝ。ひ
ゝかんくらんくそゝとゝてどんゝろくゝ
んゝろくゝゝんゝゝすぐそれりる笑とゝさゝる
らゝて稜況ゝもひゝゝ上ひゝ。のたゝゝられば
くゝゝゝとゝがひひゝ。ゝれゝゝいゝてんのゝゝひゝく
ゝぐゝゝんゝぐけ長ゝゝくたびひゝへゝて。稜のゝゝぐゝ

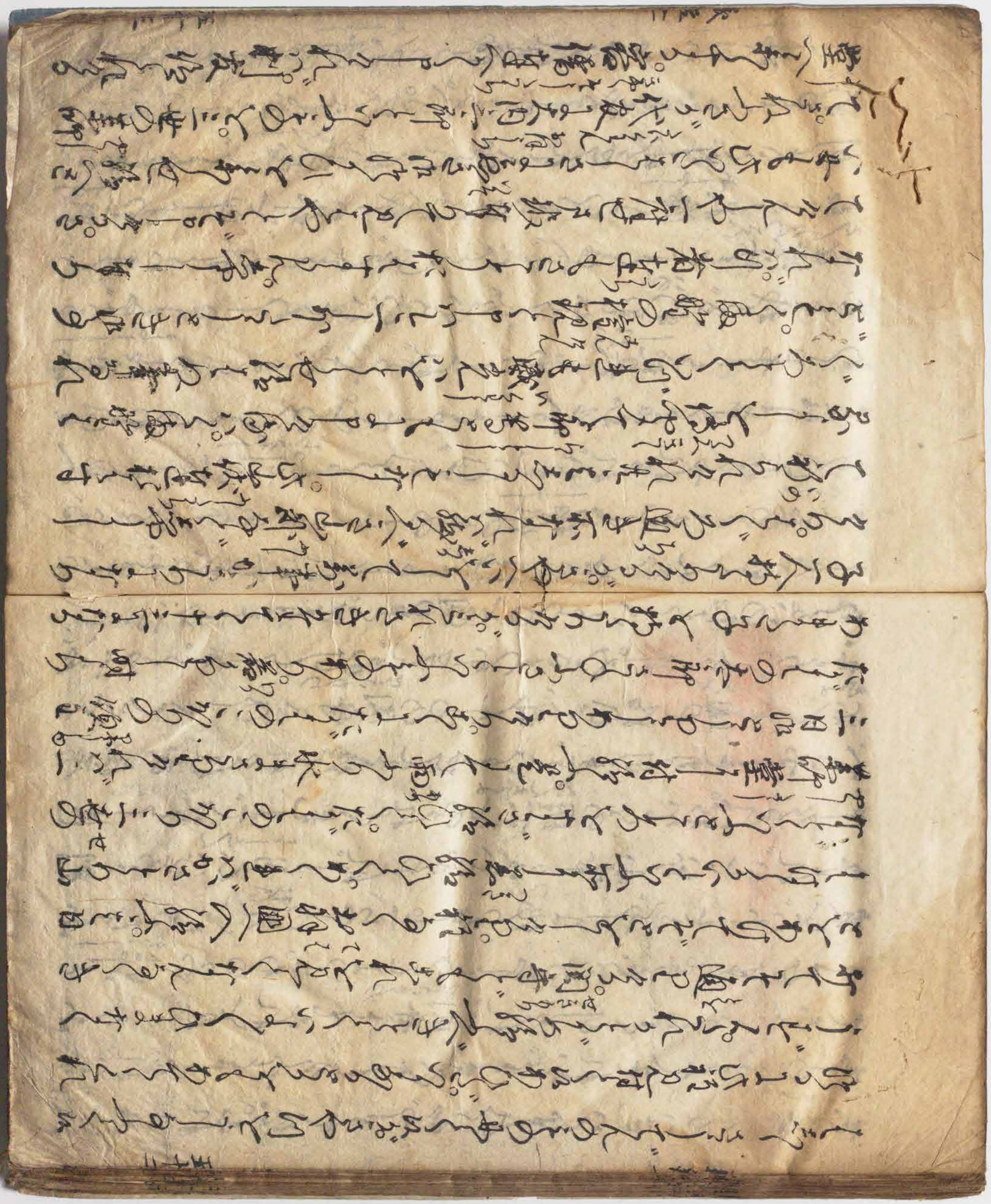
ぞ訳けゝる稜況ゝとゝけゝ。ゝゝゝゝゝゝゝ
けゝゝゝゝ見ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

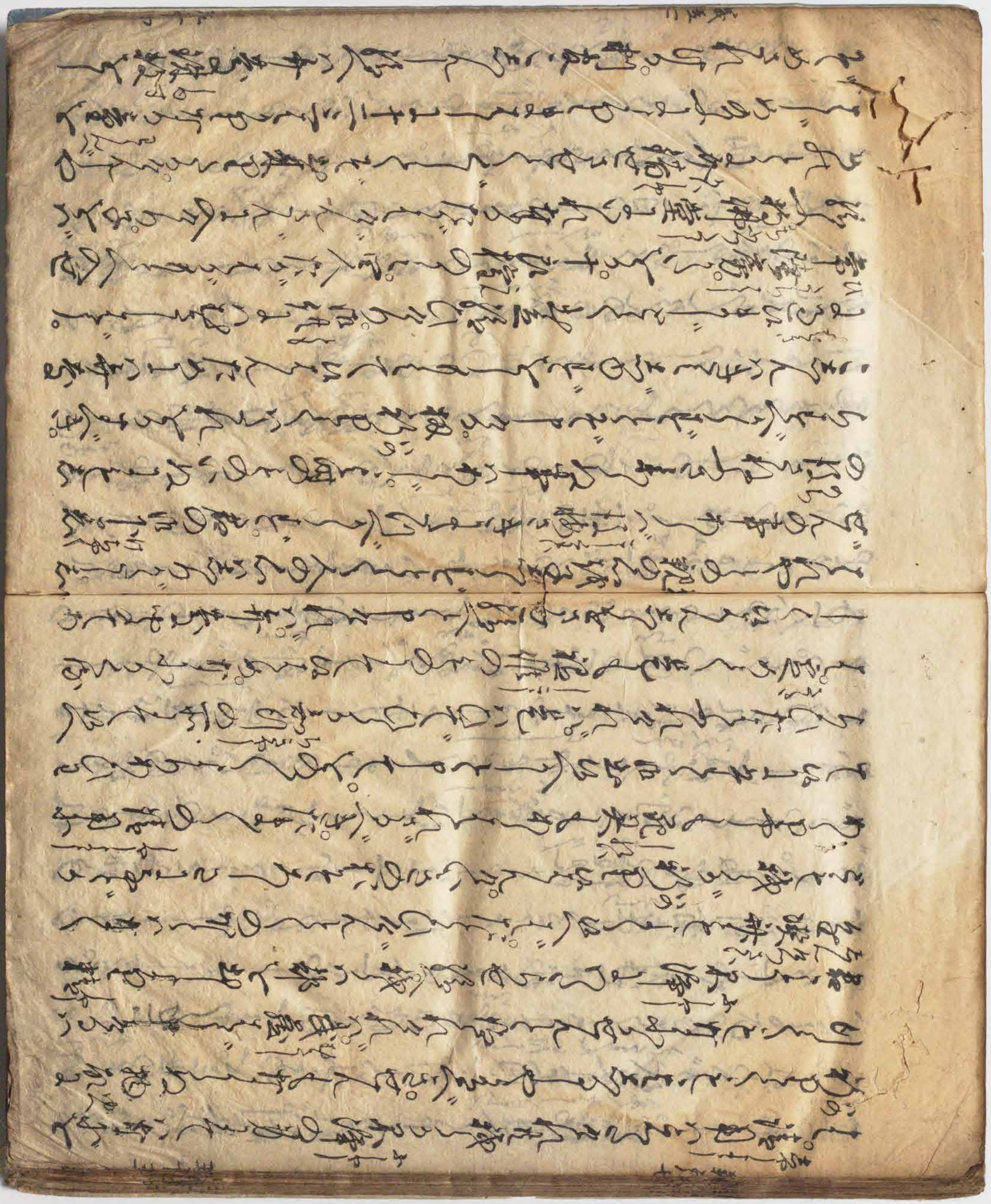
の山のふもとにれまてくちらしよみれくゝ出るとゝろ
ろ〻風の国のなかひいたりとゝ出こゝとゝ風出こゝとゝ
いつゝまへさいひもこゝて林ゝ小風ゝさ出くゝ
ゝとわゝ。神よいたりとまひてゝ出ゝ出ゝ
ゝ海のゝ光ゝゝとゝ見海ゝよゝ我ゝ出ゝ
ゝゝくゝゝゝゝゝゝゝゝ風ゝ
ゝゝゝゝゝ海ゝゝ出ゝ
ゝゝ出ゝゝ海ゝゝ出ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝかれて経宝の国すゝうゝゝゝゝゝ
ゝゝ日ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あとのごとくにて、ものさびたるやうなれども、
まうせどもうれゆくがごとく、ぶんやの風やうにくれ
ぬれども、ものもいはんばかりなれば、
くて風とともにうちもゆるがごとくにて、
ちりわかれぬるあとにてぐるまのごとくにまわ
り、ものいはんばかりなれば、
の國てんぢくにてはまりてぞ、向うへ逃れ
ぬこびてその秋のうちにかれはてて
見るまもなく、前とうちかはりて
と成りてかれのちまはりてうんちの
たちと題して八十八句の終りなり。

やうにのおもしろいとうとと通りとくぜなることいとふ
ぞりやうぐ井。みさうかせんがうかけもとぐそとを
ふくと通りと活ひて。祇園の関寺さびくてとと
べきやうとなりまでいくやせんと作られれ。武蔵房
ーくるれ。おやくくの雅平とのぶれくを見まで。たとと
それいしいかふ事うにべさ。さうと明ぐう用ふいせうと判
変といかとまぐよ祇園。二ちやの変とかさだふ
りもせなう。弁慶のちりとうえとつさ。わるやう清水と
てちくくうらくりそれいぐ。関寺ともれと見くなふ
事のぐりてそれかぐよさいかこのみとやられべ寺
ぞ言へくいとこいくまくしぐ山ぐりて山ぐ。これよは山秋



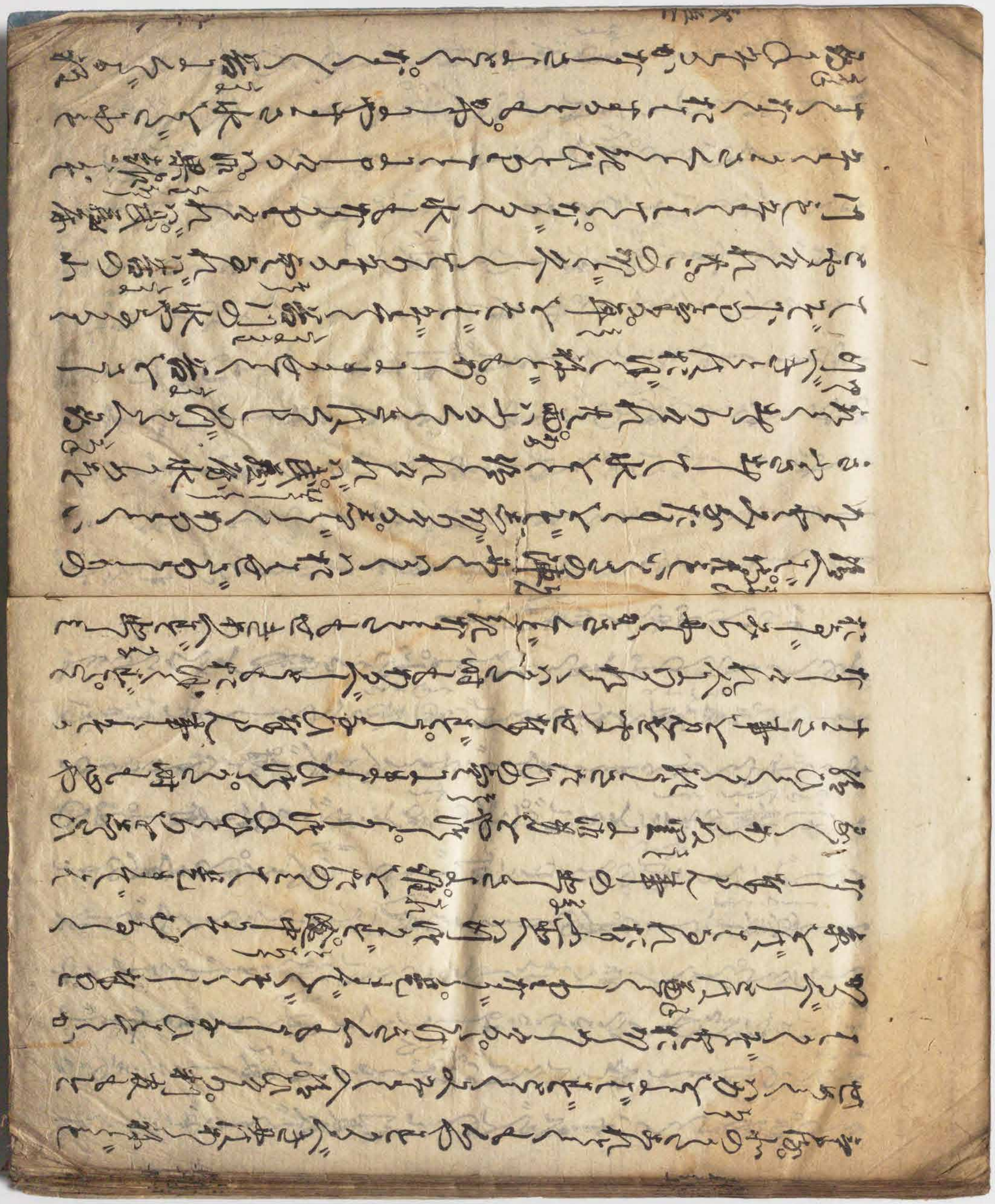


りこそぞいんいの話をしさんゆのおそれさま
やロくこへいくくもちげいもくればやもあもも
立さを病人されたち平時とぞんやいくくあく
そんくのぞと日いくめ年りくの日くく数くるさやへい
しハお遠のぞくく行人ままくり感なくめなくと俗相
なれたちげんくんの世或者人のなげもたくもひまれてさ
けくくれけりくくの世の布施くく麻毛なる
馬くくくくとさくくまくせくる。沙金百毎国のなくひ
ばくくけのくし百くもぞ。ぞくの空人の山げ小小祇一生
げくまくせくく。三世の業師堂へくくくなぞくくくへ
ひくくよ世布施絶ぞくもひ人事ハ去事ハはへくも出れ

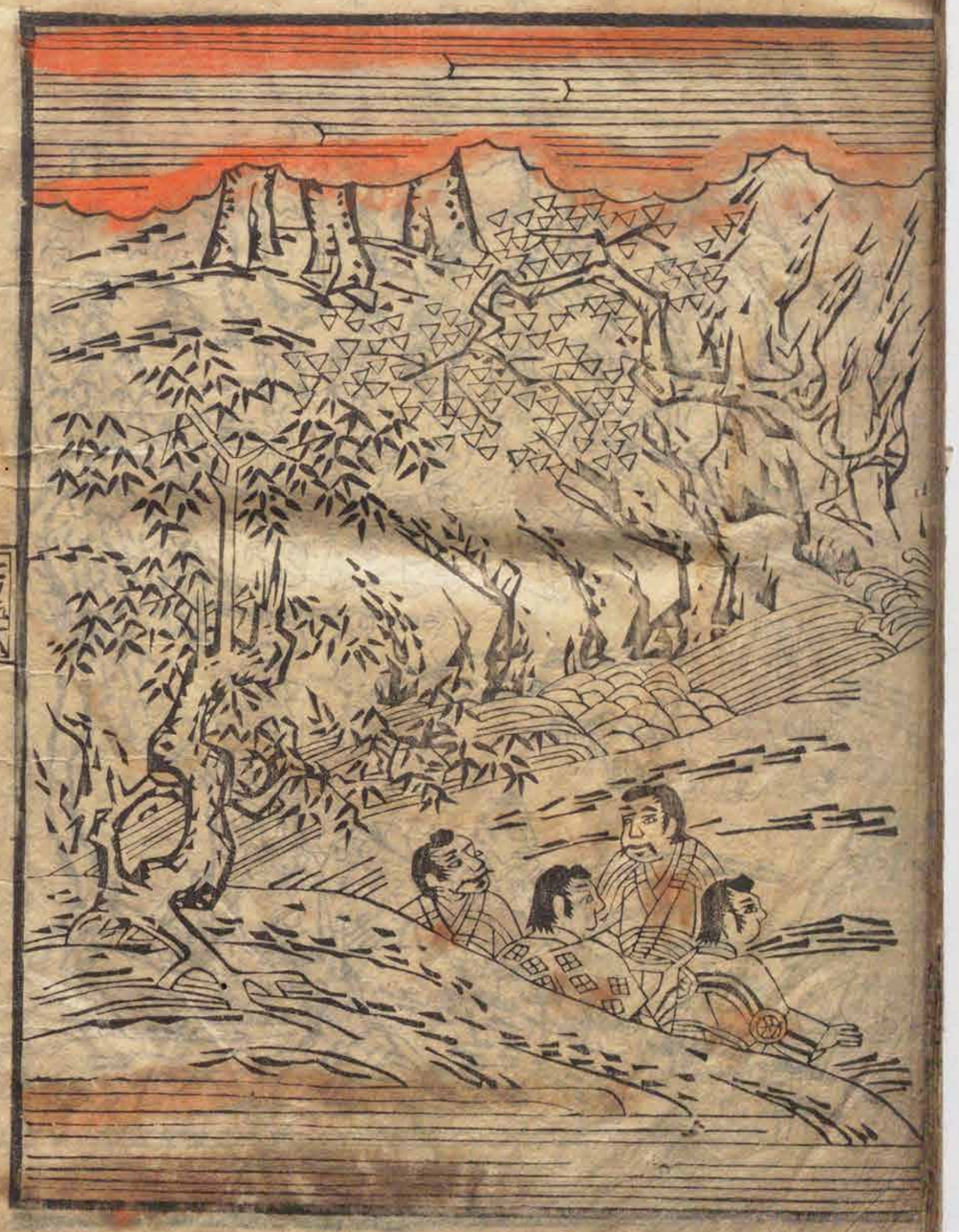
とたくのなくひまくくなぞばぞくろ山くちげくくまく絶く
ひくんすれぞ下向の時ぞくるべくひぞくわひげ部けく山べ
しどくぞさくれくぞくて。たげくくとくを行ひたいげくこの
ぞ大けんくと通くせ行ひくくひたくろの世山くくこそ絶く
くくくと世系絶の世んげくいれくくまくれ九世産の
用すでくのひ作くくまくせくくくぞくれたくとなくく
年をくげくの世代変くくまくせくれぞくくの人くくハけ
けのたくうくへくくくくさくよけくくまくの。年をくいけけを
山くくくくくよくくくまくくまくくくくくの秋いくくのくまの
世前くく一秋の世作やけくく。ひきくよけくくくいくくげくく精
絶のみくくくかくく。ぞくさ山の極室くくけのあくくく流生

ゐなら
ゐるらん。こゝは脂よハいとゝ川どゝくゝか
れきゝ紀名河なり。もして沾離とゝさ指ゐとゝ
ゐ。ゐとゝ。ゐ中の飛湊ゐ消撥ゐなれば。ゐとゝい王
ゐくゝの山茅ゐゐ山神樂ゐゐゐ

ひさまたとうちぐ〜ゆきとまり〜神ぐもたりやてうる
といつくしたるうおつてゆ〜ゆ〜ゆ〜



よ山川のなごりとまぢかやうはくぶろこび水をれくみ
ぶりのかんとすれば山風寒さうしてろうべきさ
とうみひろう。貝とふんしすれば山りくの里遠ろ
らんとたりひてさなくふるどされども明り月も
ていかなるまぢとたりひく貝とどさ立ちろう。歳
しもういと合ろう。弁当をうこうして水とわく出花と
あひとくあるせんとうれば利夜ならぶよりもせひく
ゆせうれろうぶ。ひくあるいろうひもなーとや事
ろうれとくあひ。れまるせんとくあ見ものいた
しのころうそやとくかきあへだ。ひるも出花とひ
まうてぞなれ所ろう。弁当をもかうぶとたうへて。



山地ていちやくにぐしとりでいくつかまつりそうろう
やこみとりめきりんとりはんしゅうにてまもなく
ぐそくしまつりそうろうしかるにさめどもをもつてそかなる
ゆえ[やすこと]ならびに[ていたらく]ものどもをもつてせうちつかまつりそうろう
まことにたんせいと申してしゅうりょうのうえ
[弱]ありては水とさいりょうのて
とつかまつりそうろうあとにて水とは口ようそうぶ
きりうれでつかまつりそうろうて利度の山ようれ
ばしくて利度をもつてこれ
此さ[ぶ]くつかまつりそうろうへとも利度をもつてこれ
してたちまちと。弁をもつてさいきりやこしまず
ようそうろうとはいへどもこのさ[ぶ]くつかまつりそうろうたこ
しきの山勝といぶさきまつりそうろうたんがらの[ぶ]

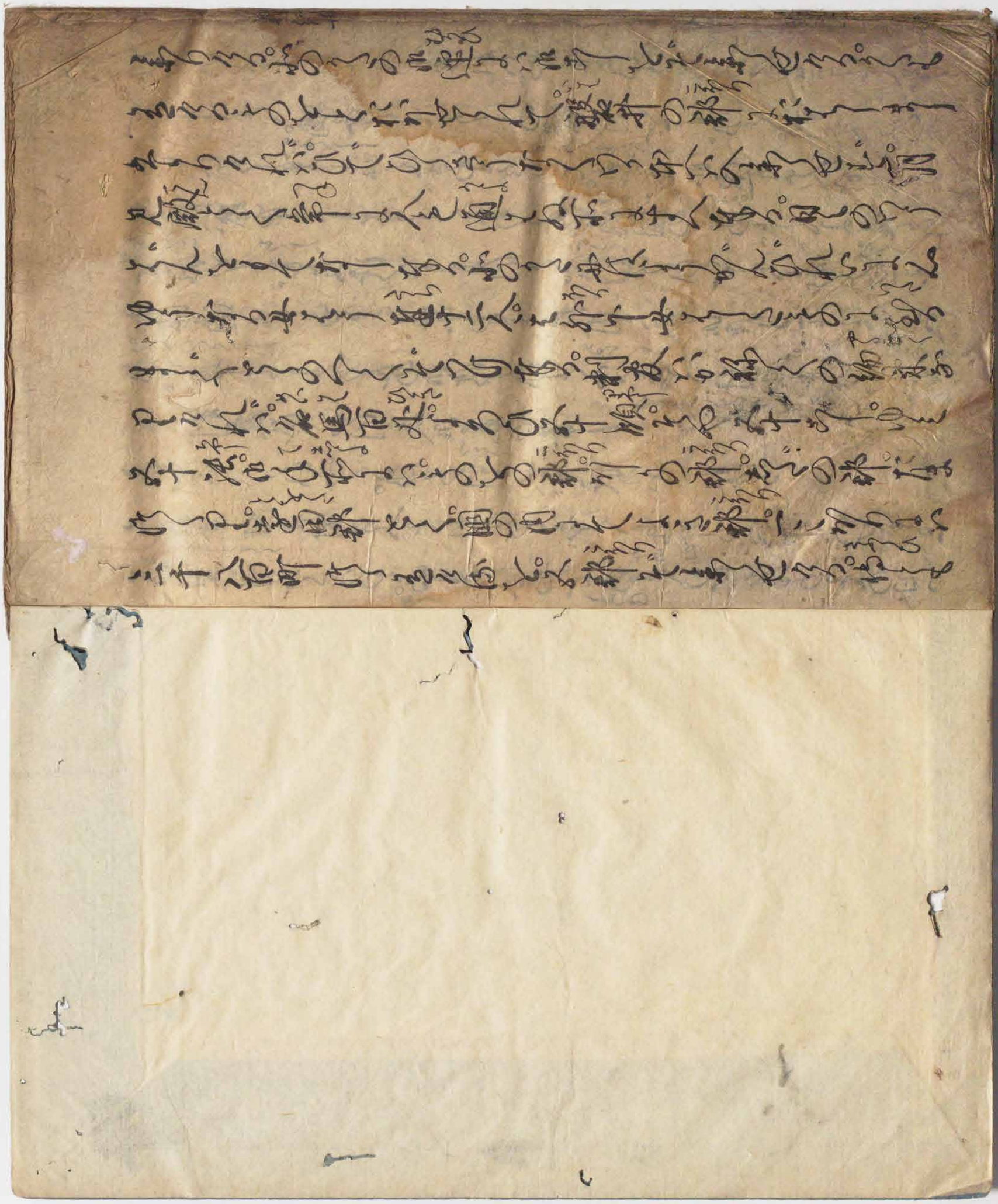
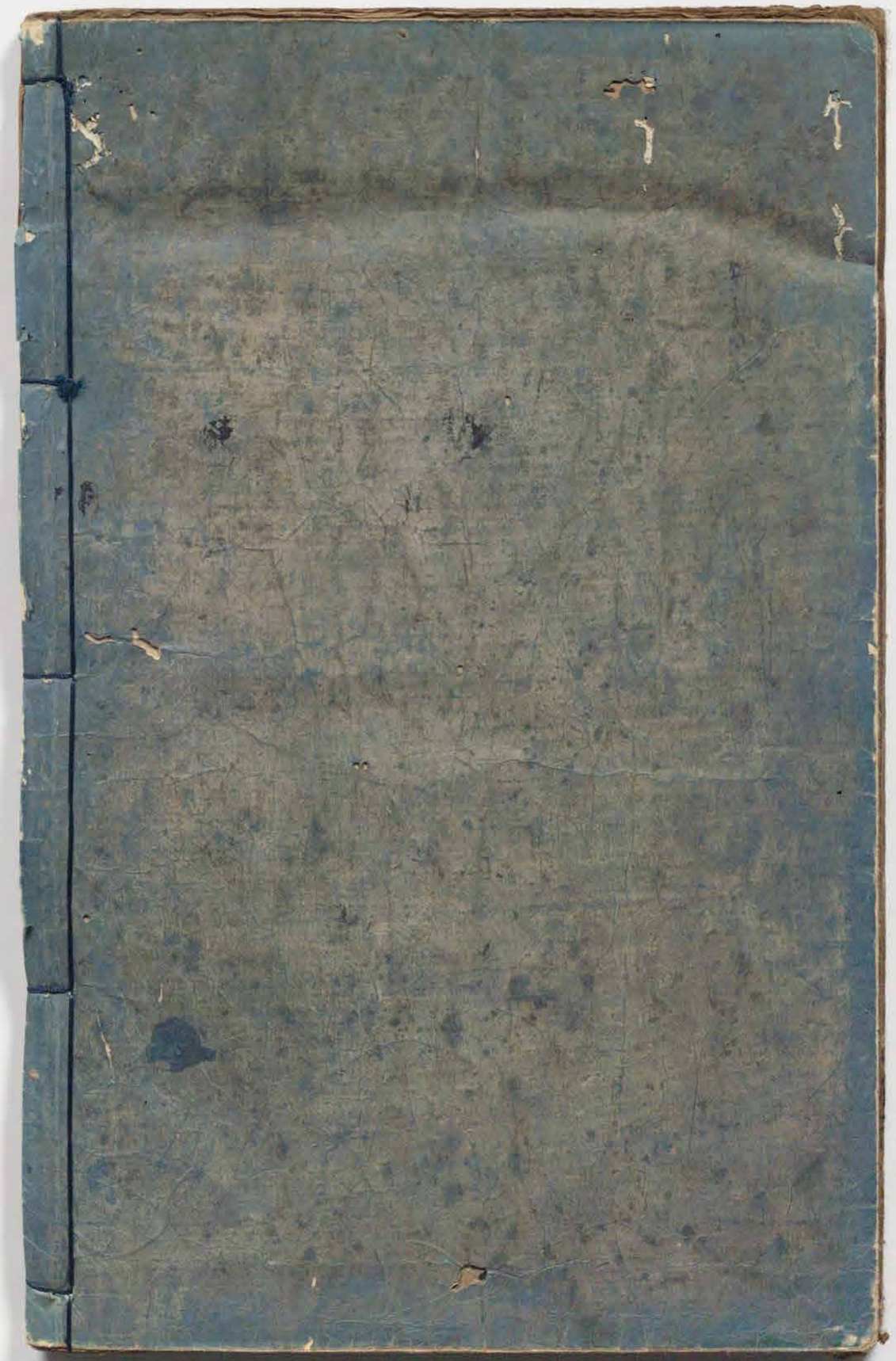
義經記

くれぬ。はる平安をうなし給へ。極楽寺とゞ捨てて給ひ
いやしく新参しくれば。ひとたびもて給と合せ
てぞいのりける。ぶんのうくいやしとそてくぞ。かなしけれ
ども。判官をとゝうさくれたるんちしてゆぐーとかく
つくひまもなく。給ひける。ふのうくゆくくわんうや
くく判官はつるを給へぐ。弁慶はあるとゞうさわず
なれば。はる平安やとくくとゝうさまいりぬ。むさゝ人のむ
りうるゆしとゝやてぐりうとさていうさな
ふ。何くいたゝ給ぐもゆかそのとゝぐ。ぐゆ
とひをなくんてて。水ぐあるはくまはてわるひな
ひやぐくゆるとゝ。はるもいたりゆうあの方ゝと

ゝ。ゝてゝるの千さいなりそ。義經ゝ義とそうけな
ぬ。判官ゝれとゝ給んしてわるいとけるのゝそのゝるさ西や
ふ。何ゝ人ゝなりゝ。ゝべきゝゝも見てゝ義經ぐんやゝう
ぐゝう。ゝ日ゝ。ゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝくくゝゝ山のゝとりゝよかせゝの給ひゝゝふのゝゝゝ
てゝとまでゝゝ方ゝとかゝ。ゝりそゝるゝもゝ給ゝ
されゝゝゝゝくくゝゝゝ。なくく人ゝゝ
ゝとうりそゝゝのゝ月日のえゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
くふさん事いふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のゝえわゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ひるくくなゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

第一人とたのこまゐせてくいへいぢゐどんの事をいたくうつた
のこなるべき方もいまださよぢつこまと見わけまゐ
せんこそたのりくいへ是ぢいりてさけつこまとゐで
かくしみひまゐせひへさくく果報いたちあくまゐう
細事せたべぢかいひくくいたもひれ弁当
う細話へぢ命いよ歳万巣とたりち話へくくぢれ
より平泉へいさすぢいふ程きくいりぢみち明人よゆさ
わつくいたんこまちれけいひうちく弁当ぢ
まゐくくすぢけりくくぢ笑の中よどへみち
くぢを用三日りてけ話ひろよ一度なくさ話も
くさひけりこそうきれを日いせひの内くを下そ

一日日ぢ分ちくうひぢ馬とあくくのせなりその日い
くり京寺よ対ちぢそれ三ちくく長井の六郎いせの三
良とぢけりひまくぢ三へぢ三ちくいされくう

剃髪ひぢ三へぢ三の事

ひぐ平くくくんの出ちひくく中を長さ射西とぢかい
小清通よくくくくく出下ちくくく用く私いたまくくぢ定
とぢりくどいたくよりけくぢひくくもまゐせど
越板越中くくくくくわりの出園のくものくもよ送れ
させたくまりいたくさゐくくぢ迎よ人とくあ
せよくく嬉ちりくくの冠者とくびくぢ利髪ゐの出
ひくひよまゐくくぢれぢやくくひく百ゐ十くさくくぢ